

令和6年度 豊田市博物館活動実績報告書

【内 容】

- 1 設置目的・使命・活動理念・事業活動
 - (1) 設置目的
 - (2) 使命
 - (3) 活動理念
 - (4) 事業活動
- 2 施設
- 3 令和6年度の総括
- 4 利用実績
- 5 開館事業
 - (1) 開館に向けた取組
 - (2) 開館記念式典
 - (3) 開館に伴う催し物
- 6 みんなでつくる博物館事業
 - (1) とよはくパートナー
 - (2) 連携事業
- 7 調査研究
 - (1) 成果の公表（豊田市博物館・展覧会に関すること）
 - (2) 成果の公表（豊田市に関すること）
- 8 保存収集
 - (1) 購入・寄贈・寄託
 - (2) 貸出実績
 - (3) 所蔵品管理
 - (4) 保存修復
- 9 展示・展覧会
 - (1) 常設展
 - (2) 企画展
 - ①開館記念展「旅するジョウモンさんー5千年前の落とし物ー」
 - ②「特別展 和食～日本の自然、人々の知恵～」

- 1 0 教育普及
 - (1) 博物館学習
 - (2) 地域との活動
- 1 1 広報
 - (1) ポスター掲示
 - (2) 新聞・テレビ・ラジオ
 - (3) 雑誌
 - (4) ホームページ・SNS
- 1 2 評価
 - (1) 自己点検による評定の傾向
 - (2) 自己点検の評価
 - (3) まとめ

1 設置目的・使命・活動理念・事業活動

豊田市博物館の設置目的・使命・活動理念・事業活動の定義については、(仮称) 豊田市博物館基本構想策定・基本計画策定、施設条例制定に向けた諸議論の中で、多数の意見をいただきながら分かりやすく適切な言葉へと整理してきた。

基本構想から一貫して重視してきたのは、「みんなでつくりつづける」ことこそが、博物館活動に持続性をもたらし、博物館活動の成果をまちづくりやひとづくりへ還元できるという考えである。この考えは、基本構想から時を経た現在においても、目指すべき博物館の姿と考えており、今後も、より適切な言葉へと整理していきたいと考えている。

(1) 設置目的

「多様な自然環境と、その中で生きる人々が生み出してきた歴史、文化及びものづくり産業の歩みを物語る資料と記憶を、市民、地域及び企業とともに未来へつなげ、市への愛着の醸成及び地域の活性化に寄与する」 (『豊田市博物館条例』第2条)

(2) 使命

使命1 「とよた」を知り、守り、未来へ伝える

使命2 「とよた」に触れ、自由な学びを育む

使命3 多様な人々や文化に出会い、「とよた」の魅力や新たな価値を発見する
(『(仮称) 豊田市博物館基本計画』)

(3) 活動理念

みんなでつくりつづける博物館

(『豊田市新博物館基本構想』)

(4) 事業活動

「収集・保存」「調査・研究」「展示・公開」「出会い・交流」「学習・創造」
「ネットワーク」 (『(仮称) 豊田市博物館基本計画』)

本書における事業実績報告との対応関係は下記の通りである。

第4章	開館事業	【出会い・交流】
第5章	とよはくパートナー（団体）	【出会い・交流】
	とよはくパートナー（個人）	【学習・創造】
第6章	調査研究	【調査・研究】
第7章	収集・保存	【収集・保存】
第8章	展示・展覧会	【展示・公開】
第9章	教育普及	【学習・創造】
		【ネットワーク】

2 施設

(1) 特徴

豊田市博物館の建設地は、江戸時代に存在した挙母城（七州城）の跡地であり、明治時代以降は、小学校や高等学校の敷地として利用されてきた。建築家・谷口吉生氏が設計した豊田市美術館に隣接する。

本館の設計者は建築家・坂茂氏で、環境負荷の低減や災害への対応を意識した 21 世紀のミュージアムを目指し設計された。太陽光による発・蓄電等により環境省の「ZEB Ready」資格を取得しており、災害時においては、市本庁舎より災害対策本部を機能移転できるよう整備している。庭園は、美術館と同じ米国のランドスケープ・デザイナーピーター・ウォーカー氏によるもの。もともと遮断されていたふたつの敷地がつながり、景観的な統一感と共に、来訪者が両館を相互に往来可能な空間となっている。

①常設展示室

「とよたの自然と人々の営み」をテーマに、豊田市の自然環境とその中で育まれた歴史、文化、産業の営みと記憶を「とよた」の魅力として紹介している。

②展示室 1・展示室 2

本市の歴史や文化、産業、自然などをテーマにした展覧会の開催とともに、大規模な巡回展も開催可能。大型資料も展示可能な天井高を有し、空間演出等のための可動壁を備えている。

③えんにち空間

市民や企業による展示などが、縁日のように立ち並ぶオープンスペース。大型展示物の展示も可能な天井高をもつ木架構の大空間は「みんなでつくりつづける」博物館を象徴する。

④セミナールーム

博物館学習での利用や講演会・講座など、市民や来館者が多目的に利用できるスペース。

⑤体験室

博物館学習での利用や講座など、実験や工作などの体験を中心に据えた学びの場としてのスペース。

⑥とよはくアクアリウム

豊田市に生息する水棲生物などの展示を行う水槽が設置されているスペース。とよはくパートナーとともに、生物を採集し飼育している。

⑦みんなの研究室

博物館の資料閲覧に使用できるスペースと資料の収蔵スペースで構成されている。資料の一部は、持ち出して手に触れながら閲覧することができる。

⑧図書コーナー

豊田市の歴史や自然に関する書籍を配架するスペース。市民や来館者が自由に閲覧することができる。

⑨ミュージアムカフェ・ショップ

坂茂氏の特徴である紙管を使った内装のカフェ。ショップでは豊田市の魅力を伝えるオリジナルグッズを販売している。

⑩キッズスペース

0～3歳までの子どもと保護者専用のスペース。幼い頃から博物館に慣れ親しめるように、常設展示と関連したテーマを題材にした木製アイテムによって楽しく遊べる場としている。スペースを取り囲む木ルーバーは、博物館から見ることのできる三河山地の稜線をイメージしている。

⑪収蔵庫

豊田市が所蔵する貴重資料を将来に渡って安全・安定に保管・継承するため、資料の特性に合わせてジャンル分けし収蔵している。

⑫むかしの家〔旧平岩家住宅（市指定文化財）〕

江戸時代中期から後期頃の農家の主屋。昔の住居の構造や特徴を見ることができる。

⑬土蔵

明治末期に建てられた挙母の商家の蔵。

⑭榎尾1号墳

野見山町（高橋地区）にあった古墳時代終末期の8世紀初めに築かれた円墳。墳丘内の横穴式石室内に入ることができ、石室の石積みを見ることができる。直径約10m。

⑮観察池

とよはくパートナーとともに、水辺の生き物が観察できる環境を整備している。豊田市内に見られる農業用のため池や水路をモデルにしている。

⑯どんぐりの森

豊田市内の小学生が種から育てた豊田市内産のどんぐりの苗木を植樹して、雑木林をつくっている。

⑰ウッドデッキ、イベント広場

マルシェなどの屋外イベントの開催や休憩もできるスペース。ウッドデッキには、豊田市産の木材が使用されている。

3 令和6年度の総括

豊田市博物館は、地域のあゆみをうけつぎ、その魅力をさぐり、豊田市の人と未来をつくる博物館となることをめざして令和6年4月26日に開館した。

「みんなでつくりつづける」を運営コンセプトに掲げ、準備段階からそれを具体化する活動に積極的に取り組んできた。開館後にその活動の中心的な役割を担っているのが「とよはくパートナー」である。個人パートナーと団体パートナーとがあり、博物館の事業活動に幅広く参画している。令和7年3月末日で162人を数える個人パートナーは、博物館の楽しみ方ガイドグループ、博物館学習グループなど5グループに分かれて活動し、開館年度の末まで1年間で延べ2,477人の参加があった。また企業や団体、サークルなどが参加する団体パートナーは、開館時73団体だったものが同年度末には102団体に増加し、えんにち空間や常設展での展示活動や各種のイベント、ワークショップの開催などで延べ92回の活動が行われ、多くの来場者がそれらの活動に参加することができた。これらの実績は、「みんなでつくりつづける」ことが軌道に乗りはじめ、市民と連携して活動を展開することがこの博物館の特徴になってきていることを物語っているといえよう。今後は個人パートナーの自主的な活動の拡大、また団体パートナーとは一層の意思疎通を図り、博物館という場を活かした幅広く充実した活動ができるように取り組んでいきたい。

また開館準備段階から準備を進めてきた博学連携事業では、アクティブ・ラーニングツアーとして実施した市内の小学校6年生と中学校2年生による博物館での学習に延べ125校、8,432名の参加があった。さらにこれに博物館スタッフによる学校での出前授業や資料の貸し出しなども加えると、市内の延べ335校、24,451人の児童生徒に博物館との結びつきのなかで学習の機会を提供することができた。これに加えて教員の各種の研修会なども博物館で行われるようになり、学校現場との連携が当館の活動軸の一つとなっていて考えている。

博物館事業の中心となる展示部門では、常設展と企画展を並行して開催するようにしている。常設展では「とよたの自然と人々の営み」をテーマとして掲げ、従来の年代順や分野別の展示から抜け出して、自然や民俗、歴史などの資料を総合的に展示し、来場者それぞれの関心と興味でそれを楽しみ、探究することを促すという手法に取り組んできた。この展示方法については斬新である、楽しめるといったポジティブな感想が多く寄せられている。常設展としての入場者も多く、概ね目論見通りの成果をあげつつあると認識している。一方でこれまでの博物館が多く採用してきた歴史の時間軸による展示、あるいは分野別の展示でないことへの戸惑いや、解説の少なさ、展示資料の一部が見えにくいといったネガティブな評価があることも事実である。それに応えるためにスロープに双眼鏡を配置すること、集合展示に関しては使いやすい展示マップの提供といった対応を重ねている。

企画展は建物竣工後の展示環境の整備をはかるため、開館半年後の10月から開館記念展として「旅するジョウモンさん」を開催し、全国各地から各地方を代表する縄文土器を中心とした考古資料を借用し、縄文時代中期に焦点をあて、誰もが親しみやすく興味を抱けるように配慮した当館ならではの展示構成を実現することができた。展示室内に「ジョウモン不動産」という豊田市域の縄文遺跡にも興味をいただけるよう工夫した参加型のコー

ナーを設けて好評を得ることができた。またこの展覧会にあわせて、「とよはくセミナー」として教育分野や考古学の専門家などの参加を得て複数回のシンポジウムを開催するなど、専門的なテーマによる関連事業も実施することができた。それに続いて国立科学博物館で開催された巡回展「和食展」を開催し、和食に関する自然科学から民俗、歴史にまで及ぶ幅広い展示は、来場者に日本食の特徴や魅力を十分に伝えることができたと考えている。この展覧会に合わせて常設展で豊田の食についての特集展示、料理研究家の土井善晴氏を迎えての講演会、とよはくパートナーなどによる関連事業などを充実させることができ、多くの市民の参加を得ることができた。この二つの展覧会では、当初見込んだだけの入場者数を確保することができなかつたため、展覧会の広報周知に一層の工夫をしていく必要がある。今後も博物館ならではの自主企画展と、国内外の幅広いテーマを扱った巡回展をバランスよく開催し、市民に多様なテーマの水準の高い企画展観覧の機会を提供していきたいと考えている。

展覧会をはじめとする幅広い事業を展開したことで、目標以上の来館者を迎えることができ、みんなでつくりつづける博物館というコンセプトの具体化や博学連携事業などで開館年度としては大きな成果をあげることができた。一方で開館という多忙な業務環境であったこともあり、博物館の活動の基礎となる調査研究などにしっかりと取り組み、その成果を示すことは十分にはできなかったと考えている。次年度以降はこの成果や課題を引き継ぎながら、補うべきことや改善すべきことに取り組みながら、市民と地域社会との良好な関係をつくりだし、豊田市にとって欠くことのできない博物館として多くの方に認められるよう、事業活動の充実に取り組んでいきたい。

4 利用実績

観覧者数 171,866 人

施設利用者数 112,728 人

施設総利用者数 284,594 人

①観覧者数

									(人)
年	月	日数	企画展		常設展		合計		
			観覧者数	1日平均	観覧者数	1日平均	観覧者数	1日平均	
	6	4	6	-	-	8,171	1,362	8,171	1,362
		5	26	-	-	18,529	713	18,529	713
		6	26	-	-	14,162	545	14,162	545
		7	27	-	-	11,213	415	11,213	415
		8	28	-	-	14,326	512	14,326	512
		9	27	-	-	10,477	388	10,477	388
		10	25	5,679	227	6,483	259	12,162	486
		11	27	9,672	358	9,338	346	19,010	704
		12	23	3,768	164	3,425	149	7,193	313
	7	1	20	5,375	269	6,878	344	12,253	613
		2	25	10,450	418	11,142	446	21,592	864
		3	26	11,334	436	11,444	440	22,778	876
合計		286	46,278	317	125,588	439	171,866	601	

②セミナー・ルーム利用状況

								(人)
年	月	日数	人数	内訳				
				貸出	イベント	学習	その他	
6	4	6	250	0	250	0	0	
	5	26	1,564	0	115	1,438	11	
	6	26	1,888	15	340	1,430	103	
	7	27	1,632	587	467	578	0	
	8	28	993	759	184	0	50	
	9	27	2,086	185	626	1,275	0	
	10	25	1,023	107	30	886	0	
	11	27	1,982	142	274	1,566	0	
	12	23	1,309	130	209	874	96	
7	1	20	1,189	724	198	248	19	
	2	25	2,766	2,256	56	403	51	
	3	26	609	131	205	243	30	
合計		286	17,291	5,036	2,954	8,941	360	

③体験室等附属施設利用状況

年	月	日数	体験室	むかしの家	みんなの研究室	カフェ	ショップ	その他施設	(人)
6	4	6	70	376	624	1,222	744	100	3,136
	5	26	1,508	1,120	1,963	1,781	679	3,998	11,049
	6	26	1,838	8,911	1,068	1,558	482	0	13,857
	7	27	812	2,128	866	1,352	443	0	5,601
	8	28	643	1,696	1,575	1,569	581	394	6,458
	9	27	1,727	1,692	1,182	1,312	457	1,500	7,870
	10	25	962	930	646	1,111	923	2,282	6,854
	11	27	1,412	1,065	713	1,425	1,523	5,485	11,623
	12	23	1,066	508	415	861	755	2,161	5,766
	7	1	438	557	438	1,095	480	7,393	10,401
	2	25	617	704	800	1,464	589	233	4,407
	3	26	728	1,836	779	1,562	669	2,841	8,415
合計		286	11,821	21,523	11,069	16,312	8,325	26,387	95,437

※その他施設：又日亭、隅櫓、庭園

5 開館事業

(1) 開館に向けた取組

開館に向けたさまざまな活動を市民と共に進めることで、市博物館活動への参画の機運醸成を図ってきた。

①ワークショップ

豊田市博物館基本構想で検討した新博物館の方向性や在り方を市民とともに考え、計画や設計に活かすことを目的として、下記のワークショップを実施した。

第1回 「あったらいいな！こんな博物館」	
日時	平成 29 年 3 月 19 日（日） 午後 1 時～午後 4 時
会場	豊田市郷土資料館 会議室
概要	市内外在住者の参加により、博物館に対するイメージや理想像について、グループに分かれてアイデアを出し合い発表。 ＜活動テーマ＞ ・一般的な博物館のイメージ、博物館にまつわる過去の思い出 ・こんな博物館があってもいいのでは ・新博物館のキャッチコピー・説明文
参加者	28 人
第2回 「博物館を動かそう」	
日時	平成 29 年 5 月 14 日（日） 午後 1 時～午後 4 時
会場	豊田市郷土資料館 会議室
概要	市内外在住者の参加により、誰がどのような役割を担うことで魅力的な博物館になるのか、グループごとにアイデアを出し合い発表。 ＜活動テーマ＞ ・博物館を取り巻く主要な登場人物 5 人の属性 ・5 人それぞれの博物館との関わり方や役割 ・5 人のコラボレーションにより実現できる活動や生み出されるもの
参加者	25 人
第3回 「ねんどでつくるみんなの博物館」	
日時	平成 29 年 6 月 24 日（土） 午後 1 時～午後 3 時
会場	豊田市郷土資料館 1 階ロビー
概要	次代の担い手となる子どもを中心に、新博物館でできるモノやコトについて、ねんどを使って自由に表現・制作。 ＜活動テーマ＞ ・親子ですごせる部屋 ・毎日来たくなる部屋 ・すぐにお友だちができる部屋 ・つい遊びたくなってしまう庭 ・たのしく色々なことを知ることができる空間
参加者	23 人

②主催事業「今考える みんなでつくる博物館」

豊田市博物館整備にあたり、事業の周知及び多くの市民の思いを反映するため、博物館に関する講演や地域の子どもたちによるアイデア発表を行った。

【第1回】

日時	平成30年1月28日（日） 午後1時30分～午後4時
会場	豊田市美術館 講堂
内容	・豊田市における新博物館整備事業について報告 ・作家・西山ガラシャ氏による講演 「夢の実現！日本に初めて博物館を創った人たち－町田久成と田中芳男－」 ・小学生・中学生・高校生による発表
来場者	約200人

【第2回】

日時	平成31年2月10日（日） 正午～午後5時
会場	豊田産業文化センター 小ホール・多目的ホール
内容	【小ホール】 ・「（仮称）豊田市博物館基本計画」の紹介 ・笑劇波による公演「博物館に行きたけりゃ？」 ・とよた歴史マイスターや先生・子どもたちによる発表 【多目的ホール】 ・（仮称）えんにち空間（交流エリア）の試行として、市民等の出展 写真 4-1-2-2
来場者	約270人

【第3回】

日時	令和5年1月29日（日） 午前10時～午後4時
会場	豊田市民文化会館 展示室A、枝下緑地・広場ほか
内容	【豊田市民文化会館 展示室A】 ・市民・企業等の出展 「体験！古い道具と昔の暮らし」、「甘い？ 苦い？ 縄文クッキーをつくろう」「まゆマグネットづくり」「とよたの記憶あつめ」ほか 【枝下緑地・広場】 ・体験「とよたの岩石から化石を取り出してみよう」「燃えよ！火おこし選手権」ほか ・フードワゴンの出展 【その他】 ・豊田市博物館工事現場の見学 ・七州城隅櫓、又日亭内部の一般公開 ・クイズラリー 写真 4-1-2-3
来場者	約1,790人

③市民周知のためのイベント出展

豊田市新博物館の市民周知及び機運醸成を図るため、市内の各種イベントへ出展し、博物館整備事業のPRや体験型ワークショップの実施、来場者へ博物館に対する意見・要望のヒアリングなどを行った。

実施日	イベント名	会場	参加人数
平成 30 年			
2月25日(日)	WE LOVE とよたフェスタ	スカイホール豊田	約 90 人
3月4日(日)	豊田市民の誓い制定 40 周年記念シンポジウム	豊田産業文化センター	約 50 人
4月7日(土)	平戸橋桜まつり	平戸橋いこいの広場	約 300 人
5月27日(日)	ふれ愛フェスタ	豊田市駅前	約 400 人
6月1日(金) ～3日(日)	橋の下世界音楽祭 写真 4-1-3-1	千石公園	約 900 人
6月23日(土)	ミズベリングフェスタ	白浜公園	約 200 人
9月2日(日)	矢作川感謝祭 写真 4-1-3-2	千石公園	約 180 人
9月15日(土) 16日(日)	ハイブリッド文化祭	豊田東高等学校跡地	約 300 人
9月22日(土) 23日(日)	とよた産業フェスタ	豊田スタジアム	約 550 人
11月4日(日)	朝日丘フェスタ 2018	朝日丘交流館	約 400 人
11月11日(日)	とよたものづくりフェスタ	スカイホール豊田	約 350 人
12月8日(土)	東高の思い出を語る会	旧豊田東高等学校跡地 豊田東高等学校	約 200 人
平成 31 年・令和元年			
3月17日(日)	WE LOVE とよたフェスタ	スカイホール豊田	約 300 人
4月6日(土)	平戸橋桜まつり	平戸橋いこいの広場	約 290 人
8月24日(土) 25日(日)	とよた産業フェスタ	豊田スタジアム	約 400 人
11月3日(日)	とよたものづくりフェスタ	豊田スタジアム	約 60 人
令和 2 年			
7月18日(土)	ありがとう東高！お別れ見学会	旧豊田東高等学校跡地	約 550 人
令和 3 年			
3月6日(土) 7日(日)	WE LOVE とよたフェスタ 写真 4-1-3-3	とよしば（豊田市駅東側 広場）、参合館アトリウ ム	約 350 人
令和 4 年			
9月10日(土) 11日(日)	とよた産業フェスタ	豊田スタジアム	約 590 人
11月6日(日)	朝日丘ふれあいフェスタ	朝日丘交流館	約 270 人
11月27日(日)	とよたものづくりフェスタ 写真 4-1-3-4	スカイホール豊田	約 150 人
令和 5 年			
10月1日(日)	WE LOVE とよたフェスタ	スカイホール豊田	約 580 人
11月5日(日)	朝日丘ふれあいフェスタ	朝日丘交流館	約 200 人

④その他

- ア SNS による広報、ホームページ公開、Instagram 運用、YouTube 映像制作
- イ 自然標本あつめるプロジェクト、記憶あつめるプロジェクト活動 38 回・延べ 601 人
- ウ どんぐりの森プロジェクト（小学生によるどんぐりの苗植樹）
・参加校延べ 62 校 参加人数延べ 2,748 人

(2) 開館記念式典

- ・開館式・内覧会 令和6年4月25日 1,051人
木遣り音頭披露（豊田木遣り保存連合会：団体パートナー）他
- ・シャトルバス運行（一般社団法人 TCCM）4月26日～5月6日 1,505人利用

(3) 開館に伴う催し物

①展示（展示室1）

内容	企画	実施日
ペーパー・サンクチュアリ ーウクライナの現実と詩ー	NPO 法人ボランティア・アーキ テクツ・ネットワーク VAN	4月26日～5月26日
よろいを着て「合戦図屏風」の世界へ	豊田市博物館	4月29日～5月6日
コロナをこえてプロジェクト（2020年） 記憶映像展示	豊田市博物館	4月26日～5月26日

②展示（えんにち空間）

内容	企画	実施日
挙母まつり山車展示	大神明山車囃子保存会 挙母祭り保存会	4月26日～5月17日
わたしが集めた拓本	とよはくパートナー	4月26日～6月2日
愛石展示会	愛石クラブとよた	4月26日～29日
豊田の木が博物館になるまで	西垣林業株式会社	4月26日～6月30日
環境にやさしいスローモビリティ	豊田鉄工株式会社	4月26日～6月30日
アートフレンド活動紹介	アートフレンド	5月21日～6月2日
おめでとう！五平餅さん桶茶さん。	とよた五平餅学会 いなぶ桶茶茶温会	5月26日
豊田市の自然	豊田市自然愛護協会	6月4日～9月1日
とよトリ隊展示	とよトリ隊	6月4日～16日

③豊田市博物館等主催のイベント

	主催者	内容	実施日	参加人数
1	豊田市博物館	鎧を着てみよう	5月3日・4日	96
2	豊田市博物館、豊田市美術館	お庭でマルシェ	5月3日・4日	3,738
3	とよたの特産品展実行委員会	スイーツ&パンフェス	5月4日・5日	1,721
合計				5,555人

④とよはくパートナーとの共催によるイベント

	団体名	内容	実施日	参加人数
1	小原ハートアートファンクラブ	工作	4月27日・28日	39
2	きたら合唱部	コンサート	4月28日	160
3	篠笛ユニット	コンサート	4月29日	216
4	アートフレンド	博物館美術館ツアー	4月29日	31
5	ゆめばレット	パズル体験 童話読み聞かせ	5月3日・4日 6月22日・23日	472
6	平和町おもちゃの会	工作	5月3日、6月29日	240
7	Toyota コンシェルジュ	射的など	5月4日	100
8	アマチュア無線クラブ「ターズ」	無線体験	5月5日	300
9	ディンプルアートとよた	工作	5月25日・26日	200
10	とよた M ケアの会	コンサート	5月26日	25
11	旭で和紙作り	工作	6月2日	20
12	シェア Bon	工作	6月16日	36
合計				1,839人

⑤講演会 坂茂氏「作品づくりと社会貢献の両立をめざして」 4月29日 250人

6 みんなでつくる博物館事業

(1) とよはくパートナー

とよはくパートナーは、博物館と継続的に関わり、一緒に博物館をつくりつづけていく個人・サークル・地域団体・企業等である。

①個人パートナー

登録者 162 人（令和 7 年 3 月 31 日 現在）

活動グループ名	活動内容	人数
A 博物館の楽しみ方ガイドグループ	展示案内・体験活動の補助や説明 等	48
B 自然体験グループ	観察池・どんぐりの森の整備 等	33
C 博物館学習グループ	来館した学校への授業対応、各種講座の対応 等	68
D 博物館の環境維持グループ	博物館の資料を虫害などから守るためのトラップ調査 等	21
E あつめるプロジェクトグループ	記憶あつめの実施や集まった情報の整理 等	15

※ 2 つ以上のグループに重複して活動する登録者有

【活動実績】活動人数：2,477 人

月	A	B	C	D	E	小計 (人)
4 月	55	56	59	28	12	210
5 月	66	49	190	19	25	349
6 月	102	23	157	22	36	340
7 月	61	28	142	15	15	261
8 月	60	0	8	15	12	95
9 月	50	20	122	18	15	225
10 月	82	20	159	15	9	285
11 月	43	17	124	13	13	210
12 月	40	0	82	13	10	145
1 月	62	21	39	18	8	148
2 月	40	18	66	15	6	145
3 月	47	0	0	9	8	64
	708	252	1,148	200	169	2,477

②団体パートナー

登録団体 102 団体（令和 7 年 3 月 31 日 現在）

内訳 企業：28 社、協会・組合等：13 団体、サークル：61 団体

活動実績

セミナールームでの講演会や体験室でのワークショップ、イベント広場でのマルシェを開催した。また、えんにち空間や常設展示室での展示を行った団体パートナーもあった。

イベントの開催 76 回

えんにち空間・常設展示室での展示 16 回

(2) 連携事業

① えんにち空間

開館イベントにおける取組（「3 開館事業」参照）の他、団体パートナーを中心に、個人パートナーや市役所各所属による展示を行った。

内容	企画	期間
『川しらべ』を実施します！	環境保全課	6月4日～6月30日
三河の伝統工芸「ガラ紡」の魅力	オンリーワン	7月2日～7月21日
猿投地域の歴史について	とよはくパートナー	7月2日～8月4日
豊田の新民謡	とよはくパートナー	7月2日～8月4日
発見！身近にある銅鐸のデザイン	とよはくパートナー	7月2日～8月4日
広幡町の郷土史研究家の足跡	とよはくパートナー	7月23日～9月1日
鯨の大祭典	名古屋グランパス	7月23日～9月1日
身近な『コケ（苔）』の不思議！	豊田化学工業	8月6日～8月18日
綾渡の夜念仏と盆踊り	ツーリズムとよた	8月6日～8月18日
おいでんアート・ハートちゃんに込められた思い	チームおいでん	8月6日～8月18日
四郷町天道自治区の献馬飾り	豊田市棒の手保存会	8月20日～9月1日
みんなが描いたゴッホ	アトリエアーティスト	8月20日～9月1日
「衣の里とよた」をふたたび	とよた衣の里プロジェクト	9月3日～9月29日
わたしたちが、わたっている「橋の土台を見てみよう」	太啓建設株式会社	9月3日～9月29日
まちなかといなかをビュン	SZaMT Entertainment	9月3日～9月29日
小原の観光	小原観光協会	9月3日～9月29日
植物からの糸づくりを楽しんでいます	績む・絢う・紡ぐ	11月12日～12月8日
中村寿一・豊田喜一郎顕彰会パネル展示	豊田市産業労働課	12月17日～12月27日
SDGsに寄り添ったお絵描きの魅力を広めています	ディンプルアートとよた	3月18日～4月6日

② むかしの家

江戸時代に建てられた民家で、豊田市指定文化財となっている旧平岩家住宅を移築し、様々な活動に利用している。

内容	企画	期間
コンサート	きたら合唱部	4月28日
コンサート	篠笛ユニット-yui-	4月29日
パズル体験・童話読み聞かせ	ゆめばレット	5月3日・4日
無線体験	アマチュア無線サポーターズ	5月5日
コンサート	とよたMケアの会	5月26日
琴演奏体験	SZaMT Entertainment	7月30日～8月2日

無線体験	アマチュア無線サポーターズ	8月25日
琴演奏体験	SZaMT Entertainment	9月16日
コンサート	とよた M ケアの会	10月12日
和紙工芸品展示	豊田工芸協会	10月17日～10月20日
無線体験	アマチュア無線サポーターズ	11月17日
ワークショップ	矢作川水族館	11月30日
拳母木綿展示	拳母木綿伝承会	3月24日～4月6日

③とよはくアクアリウム

とよはくアクアリウムでは、団体パートナーである矢作川水族館と連携し、小中学生を含む全 24 名が水槽管理グループとして活動を行った。豊田市内に生息する魚類を中心に展示を行い、特別展和食の開催期間には、展覧会内で紹介されている魚類の実物を特集した展示も行った。

④常設展

とよはくパートナー（団体）登録企業を中心に、企業連携による展示を実施した。令和6年度には「日本を支えるとよたの地下資源」と題し、市域から産出する地下資源がどのように私たちの暮らしに関わっているのかを紹介する特集展示を開催した。本企画にあわせて、企業が講師となって事例を紹介する指導者向けセミナーも実施した。

【日本を支えるとよたの地下資源】

展示期間：令和6年10月12日（土）～令和7年4月6日（日）

セミナー：令和6年12月25日（水）

参加企業：AGC 株式会社、AGC ミネラル株式会社、東海窯業原料株式会社、丸普窯業原料有限会社、株式会社豊、株式会社鈴木石材

7 調査研究

(1) 成果の公表（豊田市博物館・展覧会に関すること）

高橋健太郎

- ・「博物館の次の道」（『博物館研究』第 59 巻第 5 号、公益財団法人日本博物館協会、2024 年）
- ・豊田市博物館編『豊田市博物館開館記念展 旅するジョウモンさん』（豊田市博物館、2024 年、展覧会図録の編集、共著）
- ・「開催趣旨」「豊田市周辺の縄文中期の土器とくらし」（豊田市博物館編『一第 2 回とよはくセミナー予稿集—縄文中期の土器とくらし』豊田市、2024 年）
- ・「博物館は地域のなにをつくることができるか—豊田市の取組から—」明治大学博物館・南山大学人類学博物館連携事業 シンポジウム『博物館の行く道』 2024 年 12 月 9 日（発表）

名和奈美

- ・豊田市博物館編『豊田市博物館開館記念展 旅するジョウモンさん』（豊田市博物館、2024 年、展覧会図録の編集、共著）

(2) 成果の公表（豊田市に関すること）

倉林重幸

- ・「令和 5 年度大会発表概要 近世後期～明治初期 三河足助地方紙屋鈴木家の茶の湯」（『茶の湯文化学』第 41 号、茶の湯文化学会、2024 年）

高橋健太郎

- ・「縄文時代の台付土器について」（『列島の考古学』3、六一書房、2024 年）

鶴田博嗣

- ・「矢作川水系における外来魚チャネルキャットフィッシュの現状；分布情報の確度を考慮した生息域の再検討」（『保全生態学研究』早期公開（J-STAGE）、日本生態学会、2024 年、共著）
- ・「愛知県矢作川における外来魚チャネルキャットフィッシュ生息の再確認」（『伊豆沼・内沼研究報告』第 18 号、公益財団法人宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団、2024 年、共著）

中島学

- ・「豊田市に残る区有資料：新修豊田市史の調査を中心に」（『年報近現代史研究』第 16 号、近現代史研究会、2024 年）
- ・「七州城城郭内の解説」（第 30 回内藤学文公顕彰会総会記念講演会、於豊田市博物館、2024 年 6 月 2 日）
- ・「豊田市博物館の概要」（令和 6 年度愛知県高等学校地歴科初任者研修会、於豊田市博物館、2024 年 10 月 29 日）

8 保存収集

(1) 購入・寄贈・寄託

①購入

- ・件数 4件
- ・点数 5点

	資料登録日	大分類	資料名・表題	数量
1	令和6年4月1日	歴史	『わが青春放浪記』	2冊
2	令和6年12月26日	歴史	『帝劇1』	1冊
3	令和7年2月20日	歴史	『蒼海遺稿』	1冊
4	令和7年1月30日	歴史	『拳母花街競艶録』	1冊

②寄贈

- ・件数 54件
- ・点数 1,485点

No.	資料登録日	大分類	資料名・表題	数量	寄贈者
1	令和6年5月12日	歴史	豊田市写真広報 No.140	1冊	—
2	令和6年8月2日	民俗	「みんなでつくる博物館」幟	1枚	—
3	令和6年10月12日	歴史	『Casa BRUTUS』2024年8月号	1冊	個人
4	令和6年10月12日	歴史	神明町の山車 絵葉書	4枚	団体
5	令和6年11月6日	歴史	豊田市50周年記念ポストカード	1枚	—
6	令和6年11月11日	民俗	拳母祭りの法被・どんぶり・股引	3点	個人
7	令和6年12月1日	民俗	拳母祭り絵馬(令和6年度)	1枚	団体
8	令和6年12月3日	民俗	佐藤友泰の紙	15枚	団体
9	令和6年12月3日	歴史	『季刊和紙』第8号	1冊	団体
10	令和6年12月3日	民俗	奉納狂俳額	1枚	団体
11	令和6年12月3日	民俗	奉納額 三十六か撰	1枚	団体
12	令和6年12月3日	民俗	祭事社務録	1冊	団体
13	令和6年12月3日	民俗	祭事社務録	1冊	団体
14	令和6年12月3日	民俗	津島神社届出写	1冊	団体
15	令和6年12月3日	民俗	祭神記	1冊	団体
16	令和6年12月3日	民俗	総戸数調べ	20枚	団体
17	令和6年12月3日	民俗	伊勢神宮遷宮奉賛会 寄進控 古巣区	1冊	団体
18	令和6年12月6日	歴史	日本空間デザイン賞 文化交流部門銅賞 賞状・トロフィー	3点	—
19	令和7年1月6日	歴史	ジュークボックス パンフレット	1冊	個人
20	令和7年1月31日	歴史	野口雨情 色紙額	1枚	個人
21	令和7年1月17日	歴史	『郷土資料館だより』	141冊	—
22	令和7年1月31日	民俗	お縫物針セット	1点	個人
23	令和7年1月31日	考古	考古資料一式	416点	個人
24	令和7年1月31日	歴史	名古屋秤座 守随家系録	1冊	個人
25	令和7年1月31日	歴史	漆掻き関連資料〔手本〕	1冊	個人
26	令和7年1月31日	歴史	三河国加茂郡安実京村稻荷社氏子札	6枚	個人
27	令和7年1月31日	歴史	漆掻き関連資料〔帳面〕	1冊	個人
28	令和7年1月31日	歴史	漆掻き関連資料 生漆行商鑑札	1枚	個人
29	令和7年1月31日	歴史	東加茂郡蚕糸業組合員証	1枚	個人
30	令和7年1月31日	歴史	児童手牒	1冊	個人
31	令和7年1月31日	歴史	教育手牒	1冊	個人
32	令和7年1月31日	歴史	御文	1冊	個人

No.	資料登録日	大分類	資料名・表題	数量	寄贈者
33	令和7年1月31日	歴史	足助自動車株式会社株券	16 枚	個人
34	令和7年1月31日	歴史	地籍字城山図	1 枚	個人
35	令和7年1月31日	歴史	『十王讃歎修善鈔図絵』上	1 冊	個人
36	令和7年1月31日	歴史	『十王讃歎修善鈔図絵』中	1 冊	個人
37	令和7年1月31日	歴史	『十王讃歎修善鈔図絵』下	1 冊	個人
38	令和7年1月31日	歴史	『凶荒図録』	1 冊	個人
39	令和7年1月31日	歴史	そろばんの教本	1 冊	個人
40	令和7年1月31日	歴史	生徒集合写真	1 枚	個人
41	令和7年1月31日	歴史	死亡告知	1 枚	個人
42	令和7年1月31日	考古	考古資料一式	182 点	個人
43	令和7年1月31日	歴史	市民体育祭アルバム	4 冊	個人
44	令和7年1月31日	民俗	マッチ箱	42 箱	個人
45	令和7年1月31日	民俗	挙母祭り絵馬	11 枚	個人
46	令和7年1月31日	民俗	挙母祭り絵皿	2 枚	個人
47	令和7年2月1日	民俗	婚礼用蛇の目傘	1 本	個人
48	令和7年2月1日	民俗	婚礼用雨よけコート	1 着	個人
49	令和7年2月1日	民俗	婚礼用日和下駄	1 足	個人
50	令和7年2月1日	民俗	子守半纏	1 着	個人
51	令和7年2月20日	民俗	三笠の食券	1 枚	団体
52	令和7年2月20日	歴史	圓能齋書状(鈴木利十郎宛)	1 枚	個人
53	令和7年2月11日	歴史	『こどもしりょうかんだより』	576 枚	—
54	令和7年2月17日	歴史	『こどもはくぶつかんだより じゅんぴごう』	6 枚	—

③寄託

- ・件数：1 件（藤井達吉関係資料）
- ・点数：14 点（藤井達吉筆《春》1934 年）をはじめ藤井達吉の日本画等

④記憶収集

- ・令和6年度内に収集した件数 1,050 件、令和6年度末現在の総件数 1,783 件
（令和6年度内訳）博物館での収集数 1,015 件、博物館ホームページでの収集数 35 件
- ・令和6年度内に収集した記憶の具体的な内容
 - ア 食に関する記憶
（特別展「和食」や同展覧会関連イベント「給食フェア」に連動して募集）
 - イ 「養蚕・製糸」に関する記憶
（両親や祖父母の養蚕の記憶、隣家での養蚕を見た記憶、授業でカイコを飼育した記憶、製糸工場「加茂蚕糸」の記憶など）
 - ウ 「川」「祭」など、季節によって呼び起こされる記憶

(2) 貸出実績

①所蔵品・寄託品の貸出：4件

ア 「英一蝶筆 四季風俗図（四民図）屏風 六曲一双」

サントリー美術館「没後 300 年記念 英一蝶―風流才子、浮き世を写す―」展

会期：令和 6 年 9 月 18 日～11 月 10 日

イ 「織田信長像（長興寺所蔵本の複製）」

佐賀県立美術館「特別展 桃山三都一京・大坂と肥前名護屋―」展

会期：令和 6 年 12 月 6 日～令和 7 年 1 月 29 日

ウ 「棒の手用具・芝居の幕」

千足町自治区祭礼のため

貸出期間：令和 6 年 9 月 19 日～10 月 20 日

エ 「仁田四郎人形」

寺部八幡宮秋の大祭のため

貸出期間：令和 6 年 10 月 11 日～10 月 15 日

②画像の貸出：96 件

「重要文化財紙本著色織田信長像」（長興寺蔵）51 件をはじめ合計 96 件

(3) 所蔵品管理

①燻蒸の実施

博物館収蔵庫への輸送の準備として、旧郷土資料館、旧図書館、旧産業とくらし発見館及び足助資料館大河原分館に保管されている資料を燻蒸した。作業は令和 6 年 11 月から令和 7 年 2 月にかけて 33 回行った。

②資料の輸送

上記（3）①の燻蒸が終了した資料を博物館収蔵庫と旧足助資料館大河原分館へ輸送した。博物館に輸送した資料は、旧郷土資料館、旧図書館保管資料の一部、旧産業とくらし発見館保管資料の一部及び旧足助資料館大河原分館保管資料の一部である。旧図書館保管資料の一部及び旧産業とくらし発見館保管資料の一部については旧足助資料館大河原分館へ輸送した。

(4) 保存修復

①修復

江古山遺跡 SX03 出土の移動式竈・皿型土製品・長胴甕の修復（合計 3 点）を行った。

②複製制作

豊田市指定文化財長久手合戦図屏風（浦野家旧蔵）一隻と人形浄瑠璃の首（カシラ）

1 点の複製を制作した。また、博物館学習用に長篠・長久手合戦図屏風のターポリン製の幕を制作した。

9 展示・展覧会

(1) 常設展「とよたの自然と人々の営み」

常設展は「とよたの自然と人々の営み」をテーマに、以下のコーナーを設け、自然環境とその中で育まれた歴史、文化、産業の営みと記憶を紹介している。

①とよたモノ語り

高さ 7.8m の展示棚に、豊田市の多様性を感じることができる歴史・民俗・産業・自然などの資料を展示している。また、企画展や市内のイベント等に合わせて部分的に展示替えを行っている。

【主な展示替え内容】

- ・世界ラリー選手権に合わせた、選手ユニフォームの展示
- ・特別展「和食」に合わせた、学校給食に関する展示
- ・豊田市の昆虫標本コレクション

②とよた記憶トラベル

旧石器時代から現代までのモノに宿る記憶を、モノとともに生きる人々（時代人）が語る映像で紹介。併せて、展示替えを行いながら、様々な歴史資料を展示している（クロニクル）。また、現在を生きる私たちの記憶を収集・展示している。

【令和6年度の展示テーマ】

旧石器・縄文		
時代人	水汲の集落にきた男	令和6年4月～令和7年4月
クロニクル	石の道具と人の暮らし	令和6年4月～令和7年4月
	縄文人の道具－土器－	令和6年4月～令和7年4月
弥生・古墳		
時代人	手呂銅鐙に驚いた人たち	令和6年4月～令和7年4月
クロニクル	地域の王の姿	令和6年4月～令和7年4月
	祀る・祈る	令和6年4月～令和7年4月
古代・中世		
時代人	松平親氏の妻	令和6年4月～令和7年4月
クロニクル	荘園と武士の台頭	令和6年4月～令和7年4月
	豊田市ゆかりの戦国武将	令和6年4月～令和7年4月
近世		
時代人	越前から来た漆掻き	令和6年4月～令和7年4月
クロニクル	矢作川の水運と水害	令和6年4月～10月
	渡邊半蔵家	令和6年4月～10月
	桜城築城計画の挫折と七州城への移転	令和6年10月～令和7年4月
近代		
時代人	拳母の芸妓	令和6年4月～令和7年1月
	農村歌舞伎とともに	令和7年1月～（展示中）
クロニクル	近代インフラの整備	令和6年4月～10月
	古橋家と地域の近代化	令和6年4月～10月
	養蚕・製糸業の後退と自動車工場の誘致	令和6年10月～（展示中）
現代		
時代人	トヨタで働いていた父のこと	令和6年4～10月
	加茂蚕糸で働く	令和6年10月～（展示中）
クロニクル	自動車のまち豊田市	令和6年4月～令和7年1月
	人があつまるまち	令和7年1月～（展示中）
	安永川の整備	令和7年1月～（展示中）

③とよたたんきゅうラボ

豊田市の自然と、そこに刻まれた人々の営みをジオラマで紹介するとともに、常設展・企画展に関連した特集展示をハンズ・オン形式で展開している。

【主な内容】

- ・展示資料に触ってみよう（黒電話、矢立、シカの角ほか）
- ・顕微鏡に触ってみよう（生物標本、鉱物・岩石標本、土器ほか）
- ・粘土に土器のもようを付けてみよう
- ・動物足跡スタンプ
- ・和食の食材を見てみよう

④とよたストーリー

今の豊田市を生み出した様々なストーリーをテーマとして紹介するコーナーで、企画展等に合わせて展示替えを行っている。

【令和6年度の展示テーマ】

テーマ	企画	会期
この土地の記憶をたどる一城・学校・博物館ー	豊田市博物館	令和6年4月～9月
車のまち 豊田市のあゆみ	豊田市博物館	令和6年4月～9月
自然標本あつめるプロジェクト	豊田市博物館、あつめるプロジェクト昆虫チーム、あつめるプロジェクト岩石チーム	令和6年4月～9月
感じるジョウモンさん	豊田市博物館、豊田市教育自主研究グループ社会科・理科	令和6年10月～令和7年1月
日本を支えるとよたの地下資源	豊田市博物館、AGC株式会社、AGC ミネラル株式会社、東海窯業原料株式会社、丸普窯業原料有限会社、株式会社豊、株式会社鈴木石材	令和6年10月～令和7年4月
とよたの郷土食	豊田市博物館	令和7年1月～4月

⑤みんなの研究室

資料の閲覧や調査・研究ができるスペースで、収蔵スペースの資料（約50点）を実際に手に取って観察できる。

【資料閲覧件数】 2,860件

【収蔵スペースに配架した主な資料】

- ・縄文土器、自動式卓上電話機、豆炭あんか、床本「蝶千鳥曾我物語」、電気炊飯器、昆虫標本、花崗岩

【閲覧実績】

開館から1か月の閲覧数の統計をとったところ、縄文土器、豆炭あんか、小学校の音楽教科書、昆虫標本の閲覧が多かった。

■アンケート

調査期間：令和6年11月16日（土）～12月27日（金）【36日間】

実施場所：パノラマスロープの2階出口（図書コーナー）

実施方法：看視スタッフが手渡しで配布し、当日中に回収した。

対 象：常設展示室を見学した来館者

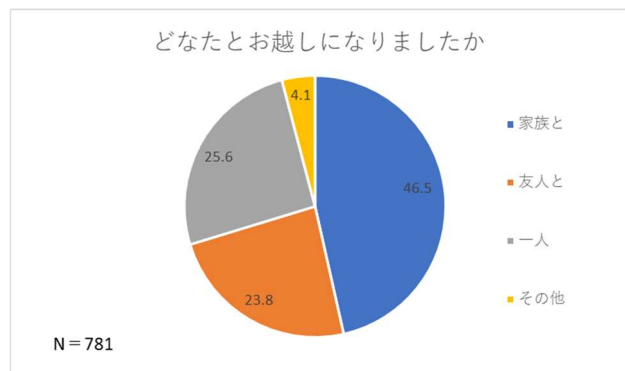
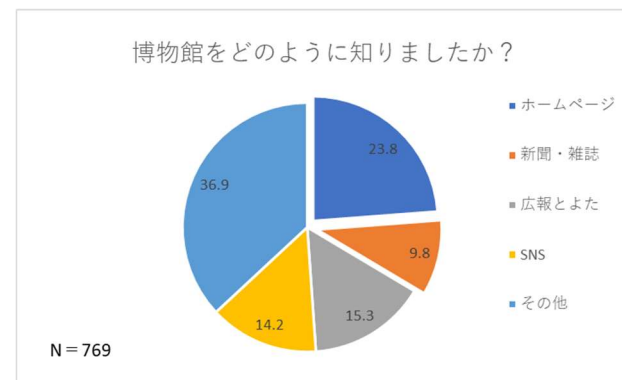
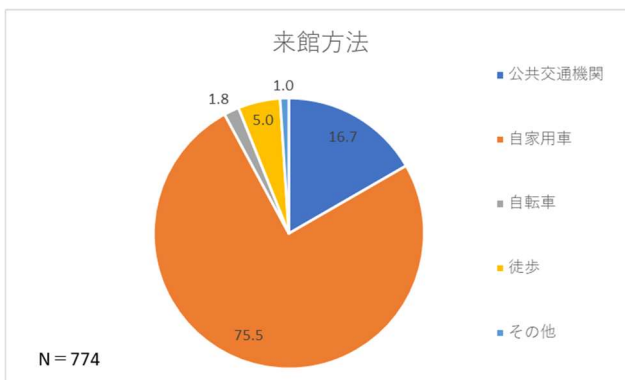
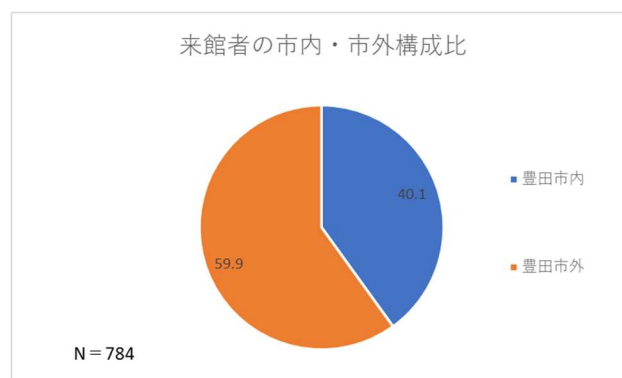
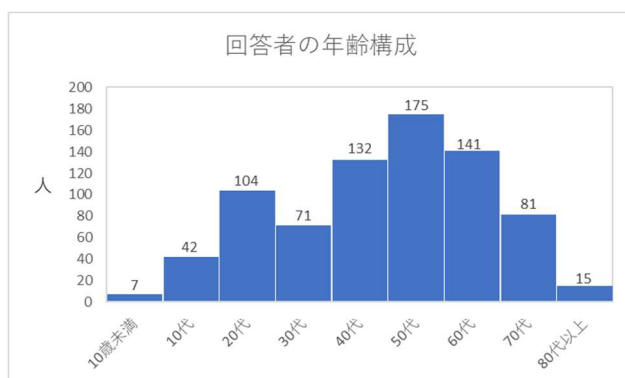
※ただし、回答の偏りを避けるため学習利用で来館している市内小中学校の児童生徒は除外した。

アンケート様式：別紙資料●-●参照

【アンケート結果より】

ア 回答者の属性に関する結果

回答数 784 件（男性：332 人 女性：448 人 未回答：4 人）



・市内・市外比は、4：6で市外の方が多かった。観覧者統計でも夏以降の市外の観覧者の割合が上がっている。

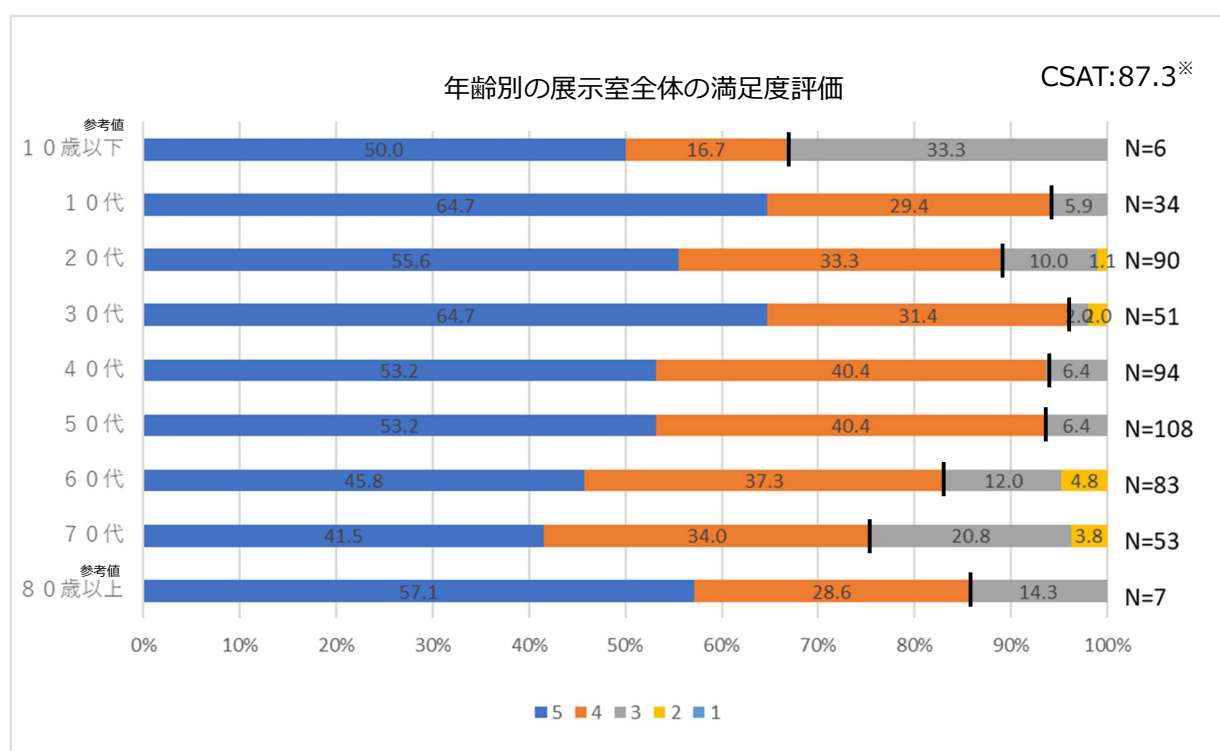
- ・博物館を知った情報ソースについては、その他をのぞいて、自館ホームページが 23.8%、広報とよたが 15.3%、SNS が 14.2%の順であった。なお、記述回答によるその他の内容としては、友人や家族からの口コミが多かった。
- ・来館方法は 75.5%が自家用車、次いで公共交通機関による来館が 16.7%であった。
- ・来館者の構成は、家族連れが 46.5%と約半数を占め、次いで友人との来館が 23.8%と多かった。

イ 展示室の評価に関する結果

常設展示室の評価（平均）

	展示室全体	モノがたり (集合展示)	記憶トラベル	たんきゅうラボ	とよたストーリー	パノラマスロープ	みんなの研究室
平均	4.40	4.19	4.08	4.22	4.15	4.24	4.07

5段階評価。5が最も高く、1が最も低い評価。



※CSAT：顧客満足度スコア；全回答に占める高評価5・4の回答数の割合。通常は75以上で満足度が高いといえる。

10歳以下、80歳以上は回答者数（N数）が少ないため参考値として記載。

【結果要約】

- ・常設展示室を見学した来館者の評価は、全体で 4.4、各コーナーも 4 を超えていた。
- ・若年層（20～40 代）で評価が高く、高齢者層 60 歳以上の世代で評価が低い傾向があったが、満足度はいずれの世代も 75 以上、全体で 87.3 と高かった。
- ・これらの結果から、展示の評価は高く、かつ幅広い世代で満足度が高いことが示された。

ウ 評価コメントの内容

（ア）常設展の展示構成・展示内容

※数字は自由記述欄で確認できた評価コメントの件数

- 展示コンセプトについて
 - ・「開かれた博物館」「会話がはずむ」「なつかしさを感じる」「子どもに見せたい」「すごしやすい」などへの評価（63 件）
 - ・「ストーリー・テーマ性」「時間軸」の不在などへの評価（15 件）
- 学び・学術性について
 - ・「新しい発見」「総合的な学び」「歴史的な学び」などの評価への評価（58 件）
 - ・内容の浅さなどに関する評価（9 件）
- 展示物・展示内容の種類や量について
 - ・全体的な「展示の更新性」「多様性や量」や、各展示セクション（「記憶トラベル」「たんきゅうラボ」「とよたストーリー」）などへの評価（128 件）
 - ・「展示資料の乏しさ」などへの評価（15 件）

（イ）常設展の展示手法について

- 「とよたモノがたり」の観覧について
 - ・「壮大さ・印象深さ・楽しさ」や「新しさ」「なつかしさ」への評価（27 件）
 - ・「見にくさ」や「キャプション」「配布資料」に関する評価（31 件）
- 見せ方について
 - ・「パノラマスロープ」や、見やすさ・デザイン性への評価（48 件）
 - ・「わくわく感がない」「子どもが楽しめる工夫がほしい」という評価（3 件）
- 体験型展示（ハンズオン）・参加型展示について
 - ・体験・参加への総体的な評価や各取組への評価（112 件）
 - ・体験・参加への総体的な評価や各取組についてプラスの評価しつつ、人的対応やハンズオンの可否に関する表示についてマイナスの評価（9 件）

（ウ）人的対応

- ・丁寧さや親切さへの評価（7 件）
- ・配置数や対応についての評価（5 件）

【対応】

- ・常設展「とよたモノがたり」について、細かい資料を見やすい位置に移動し、これまで配布していた展示資料のリストを WEB 上で見られるようにした。

(2) 企画展

①開館記念展「旅するジョウモンさんー5千年前の落とし物ー」

【総括】開館記念展として、開館後初の展覧会を催した。本展は、国宝である十日町市の火焰土器をはじめ、青森県から鹿児島県までの範囲で借用した資料約 400 点を展示することで、縄文時代中期という時代を大きなスケール感で紹介した。

また、展示室内では、常設展示室「とよた記憶トラベル」で旧石器・縄文のキャラクターとして登場している縄文人「ジョウモンさん」にナビゲーターの役割を持たせることで、5千年前の時代でも身近に感じ、幅広い世代に観覧していただくことを目指した。その仕掛けの一つとして、展示室内に「縄文不動産」を用意した。合わせて作成した公式ガイドブック（図録）についても、「ジョウモンさん」をナビゲーターとしながら、手に取りやすく、見やすいものを目指した。

結果として、目標の約8割となる19,119人（内覧会含む。）の観覧者を得た。観覧者の年齢層は、50代・60代を中心としつつも、10代の入場者も多く見られ、一つの世代に偏ることがなく広がっていた。図録の販売については、入場者の8%以上が購入（1,620冊）となり、最終日に販売分を完売した。

観覧者の推移としては、会期全体の平均は367人/日であった。会期前半からあまり観覧者数が伸びず、会期後半になって平均367人/日を超え、会期終盤では、1,000人/日を超える日もあったが、全体的にスロースタートであった。会期までの広報が不足していたことが要因として考えられる。今後は、今回の広報の内容を見直し、自館企画の展覧会について、効果的な広報（SNSでの発信・WEB広告・紙面広告・交通機関など）の方法を検討し、取り組んでいきたい。

会 期	令和6年10月12日(土) ～ 12月8日(日) 52日間
会 場	展示室1・2
観覧料金	当日券：一般：1,200円、高校・大学生：1,000円、中学生以下：無料 ※前売り及び20名以上の団体は200円割引。他100円割引有り。
主 催	豊田市博物館

■観覧者数 **19,119人（有料率47.4%）** ※目標25,000人

■図録販売 **1,620冊（購買率：8.5%）**

価格800円（税込）

出版社：西濃印刷株式会社、仕様：A4変形サイズ、72ページ



【とよはくセミナー】

■第1回「子どもの学びと縄文時代」

実施日：11月9日（土） 午後1時30分～3時30分

会場：セミナールーム（事前申込不要、聴講無料）

発表者：長田友也（中京大学講師）、日高則行（豊田市教育研究会社会部部会長）、
駒野・名和（豊田市博物館）

参加者：41人（定員100人）

料金：無料

■第2回「縄文中期の土器とくらし」

実施日：①11月30日（土） 午後1時30分～5時

②12月 1日（日） 午前10時30分～午後4時

会場：セミナールーム（事前申込不要、聴講無料）

講師：建石 徹（独立行政法人国立文化財機構皇居三の丸尚蔵館／文化財防災センター）、
富井 眞（大正大学文学部歴史学科教授）、佐野 隆（NPO 法人茅ヶ岳歴史文化研究所）、
長田友也（中京大学講師）、横幕 真（小松市埋蔵文化財センター）、東 和幸（鹿児島県立埋蔵文化財センター）、
高橋健太郎（豊田市博物館）

参加者：①140人、②80人（定員100人）

料金：無料

【ミュージアムシアター】※主催：映画を活かしたまちづくり実行委員会

■ドキュメンタリー映画「掘る女 縄文人の落とし物」上映会&松本貴子監督トーク

実施日：11月16日（土） 午前10時30分～午後1時

会場：セミナールーム（事前電話申込、聴講無料、自由席）

参加者：70人（定員70人）

料金：無料

【ワークショップ】

■「縄文土器プラバンをつくってみよう」

実施日：10月13日（日） 午前10時30分～12時、午後1時30分～4時

会場：体験室

参加者：58人（先着80人）

料金：100円

■「JOMON クッキング！」

実施日：10月20日（日） 午前10時30分～12時、午後1時30分～3時

会場：体験室

講師：近藤招宏（監修者＜カフェ mitsubachi＞）

参加者：26人（定員30人、事前申込制）

料金：1,000円

■「アンギンでコースターをつくってみよう」

実施日：10月26日（土） 午前10時30分～12時、午後1時30分～3時

会場：むかしの家

参加者：16人（定員20人）

料金：300円

■「縄文でミサンガをつくってみよう」

実施日：10月27日（日）

①午前10時30分～ ②午前11時30分～ ③午後1時30分～ ④午後2時30分～

会場：むかしの家

参加者：63人（各回15人）

料金：300円

■「土偶プラバンをつくってみよう」

実施日：11月9日（土）午前10時30分～12時、午後1時30分～4時

会場：体験室

参加者：42人（先着80人）

料金：100円

■「どんぐりマグネットをつくってみよう」

実施日：11月10日（日）午前10時30分～12時、午後1時30分～4時

会場：体験室

参加者：75人（先着80人）

料金：100円

■「石器をつくってみよう」

実施日：11月23日（土）午前10時30分～12時30分、午後2時30分～4時30分

会場：体験室

講師：平井義敏（みよし市立歴史民俗資料館）

参加者：30人（定員30人、事前申込制）

料金：500円

■「火起こししてみよう」

実施日：11月24日（日）

①午前10時30分～ ②午前11時30分～ ③午後1時30分～ ④午後2時30分～

会場：むかしの家

参加者：160人（各回先着10人）

料金：無料



第2回とよはくセミナー



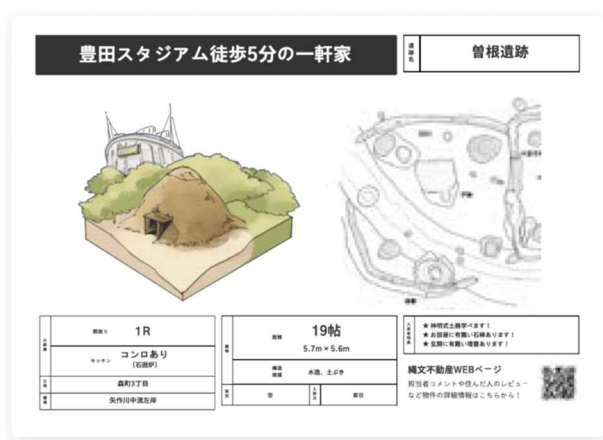
石器をつくってみよう



縄文でミサンガをつくってみよう

縄文不動産

- ・本展では、展示室内に観覧支援コンテンツとして、縄文時代をより身近に感じてもらうため、「縄文不動産」を用意した。「縄文不動産」は、生活の中で身近な「物件探し」と「縄文時代の住まい」を組み合わせ、縄文時代の竪穴住居を現代の立地を踏まえてキャッチフレーズを付けて紹介し、来館者に歴史や遺跡を身近に感じていただけるように工夫した。
- ・また、紹介する遺跡を、豊田市内の縄文時代中期の遺跡を中心とすることで、市内の埋蔵文化財の紹介の機会とした。また、市内の定住促進課と連携しチラシなどを配布することで、「物件探し」「移住」という観点から、現代の定住促進についての現状を知っていただくこともできた。
- ・会期中は、縄文不動産のブース上で、参加型の物件（遺跡）人気投票を行い、7,925票を得ることができた。WEB上でも「縄文不動産」の物件（遺跡）のより詳しい内容を閲覧できるページを用意し、総閲覧回数は3,524回であった。SNSでのシェアでネット上でも投票を行えるようにしていたが、こちらは16件にとどまった。
- ・このことから、今回は展示室内・WEBページ内を用意し、両方で物件探しや人気投票などができる参加型としたものの、目の前で完結することができるコンテンツの方が参加しやすかったことが分かった。
- ・アンケート結果では、印象的な展示として「縄文不動産」を挙げる人も多く（全体の約1割弱）、歴史を身近に感じていただける仕掛けとして、より良く機能したといえる。



物件（遺跡）紹介例

WEB版物件（遺跡）紹介例



会場風景

■秋の縄文限定メニュー（カフェ mitsubachi）

タイトル：「縄文鹿栗きのこシチュー」

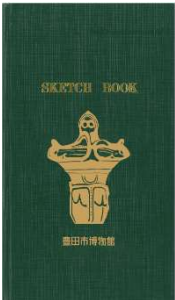
内 容：縄文時代に食べられていただろう食材、鹿、きのこ、栗を使った煮込み料理。

価 格：1,650 円（税込）



■関連グッズ他の販売（ミュージアムショップ）※価格はすべて税込み

- 1 公式ガイドブック 800 円 2 オリジナル野帳 500 円



■広報事業実績

- ・有料広告については、駅・電車内広告、新聞広告を行った。アンケート結果から、新聞・雑誌を見ての来館が 11%。また、Instagram 上で頻回の更新を行い（期間中、97 回更新）、SNS を多く見る世代へのアプローチを試みた。結果として、全体の 1 割が SNS の閲覧を通しての来館となった。
- ・一方で、常設展のアンケート結果と同じく、HP を見ての来館が約 2 割となっていることから、HP の内容については、引き続き時宜を得た更新・発信を続けていく。

広報実績：雑誌掲載＜2＞、WEB 掲載＜6＞、新聞掲載（広告含む）＜9＞、テレビ＜4＞、ラジオ＜1＞、その他電車広告＜地下鉄・名鉄・愛環＞

1	雑誌	Tokai Walker	イベントカレンダー秋SP 開館記念展「旅するジョウモンさんー5千年前の落とし物ー」縄文展	2024	秋号（8/21）	株式会社KADOKAWA
2	WEB	JRおでかけネット	イベント 開館記念展「旅するジョウモンさんー5千年前の落とし物ー」縄文展	2024	9/3	協同組合インフォメーションテクノロジー関西
3	WEB	JAVA.jp	開館記念展「旅するジョウモンさんー5千年前の落とし物ー」縄文展	2024	9/3	協同組合インフォメーションテクノロジー関西
4	WEB	Aichi Now 愛知県の公式観光ガイド	新たな発見に目覚める 今すぐ行きたい美術館・博物館特集（開館記念展「旅するジョウモンさん」紹介）縄文展	2024	9/10	株式会社ピコ・ナレッジ
5	WEB	日本考古学協会	イベント「2024年10月12日～12月8日【開館記念展】豊田市博物館会館記念展「旅するジョウモンさんー5千年前のおとしもの」縄文展	2024	9/12	日本考古学協会
6	WEB	Fashion Press	企画展「旅するジョウモンさん」豊田市博物館で、「各地で花開いた縄文文化」土器など約420点を公開。縄文展紹介	2024	10/9	Fashion Press
7	新聞	矢作新報	縄文土器など全国から420点	2024	10/18	矢作新報社
8	新聞	とよたみよしホームニュース	「旅するジョウモンさんー5千年前の落とし物ー」縄文展紹介	2024	10/25	中日新聞みよし販売店会
9	新聞	矢作新報	縄文クッキーどんな味？	2024	10/25	矢作新報社
10	新聞	矢作新報	縄文時代を妄想したクッキングイベント	2024	10/25	矢作新報社
11	新聞	新三河タイムス	「国宝土器など420点圧巻ジョウモンさん」縄文展紹介	2024	10/25	新三河タイムス社
12	新聞	中日新聞	「ジョウモンさんと土器巡り」縄文展紹介	2024	10/29	中日新聞社
13	雑誌	炎芸術	展覧会を見に行こう（縄文展紹介）	2024	11/1	阿部出版株式会社
14	新聞	信濃毎日新聞	豊田市博物館で開館記念展 共通する装飾 縄文土器が示す交流	2024	11/28	信濃毎日新聞社
15	テレビ	とよたウィークリーピックアップ	縄文展紹介（コレミテ黒曜石）	2024	10/29	ひまわりネットワーク
16	新聞	中日新聞（県内版）	縄文展新聞広告	2024	11/4	東海アドエージェンシー
17	テレビ	とよたシティムービーニュース	縄文展紹介	2024	11/5	ひまわりネットワーク
18	テレビ	とよたクロースアップムービー	縄文展紹介	2024	11/6	ひまわりネットワーク
19	WEB	美術評論	「縄文不動産」という魅力的な枠組みを全国に広げてみませんか？	2024	11/7	美術評論
20	ラジオ	ZIP-FM	縄文展紹介	2024	11/10	ZIP-FM
21	新聞	中日新聞（県内版）	縄文展新聞広告	2024	11/23	東海アドエージェンシー
22	テレビ	中京テレビWeb	縄文展紹介	2024	12/6	中京テレビ配信

（参考）ポスター・チラシ送付先

全国の博物館等	303 件（ギャラリー、大学等を含む）
市内公共施設	257 件（市内小中学校・交流館・支所含む）
その他	73 件

■アンケート

調査日：10月12日（土）～12月8日（日）

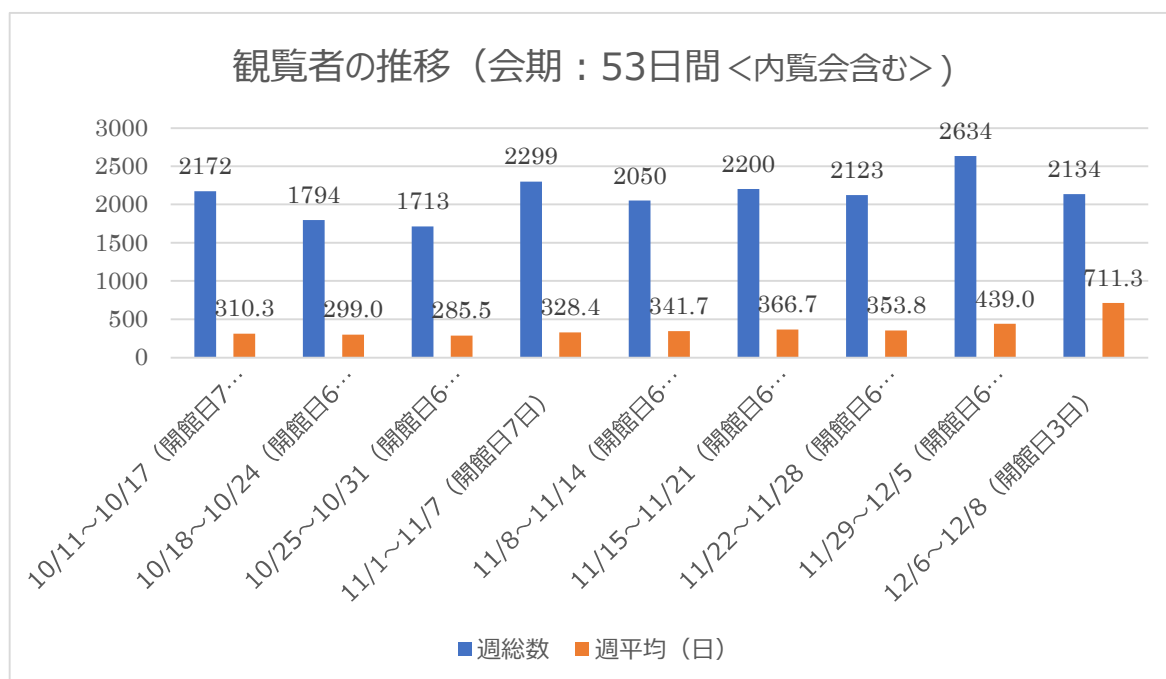
調査方法：展示室2前に紙アンケート記載機を設置し、自由記入

集計枚数：946 枚

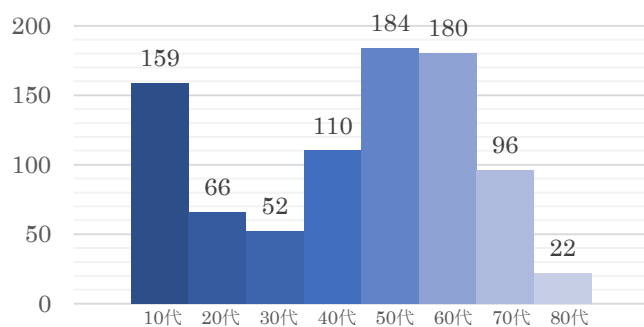
アンケート様式：別紙資料2－1 参照

【アンケート結果より】

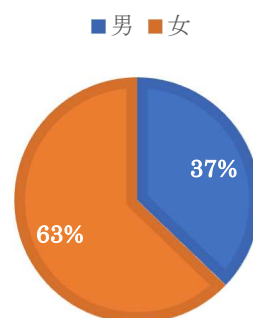
- ・来館者の年齢層については、常設展アンケートの結果と同じ割合で、10代～40代が45%、50代～80代が55%であった。しかし、学校単位で来館する博物館学習の影響もあってか、10代について、全体の18%を占めていた。20代・30代の来館が割合としては少なく、この年代への来館アプローチをどのようにするかが課題である。
- ・豊田市内からの来館者が約半数、豊田市を含め愛知県内からの来館者が90%と非常に多い割合を占めている。一方、全体の約10%が県外からの来館者であり、HPやSNS、チラシを見ての来館が多かった。今後は、県外のポスター・チラシの送付先について、より効果的な場所への送付を検討したい。
- ・また、来館理由について、HPが多くの割合を占めているが、「その他」において、学校でポスターやチラシを見たという意見もあり、市内・近隣学校への宣伝方法について、今後も手法などを考えていく必要がある。
- ・展覧会の満足度は、5（良）→1（悪い）の評価順で、「4・5」が全体の93%を占め、多くの方に高い満足度での評価をいただいた（別紙資料2－2参照）。一方で、「1～3」の低い評価が7%程度あり、今後の展覧会を行う上で、価格設定や展示手法など、検討すべき意見もいただいた（別紙資料2－3参照）。



回答者の年齢構成

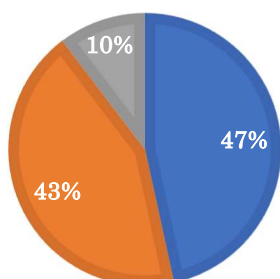


性別



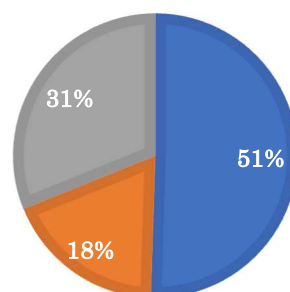
来館者の市内・市外構成比

■ 豊田市内 ■ 愛知県内 ■ 愛知県外



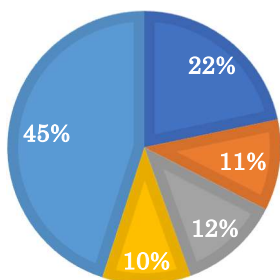
どなたとお越しになりましたか

■ 家族 ■ 友人 ■ 一人



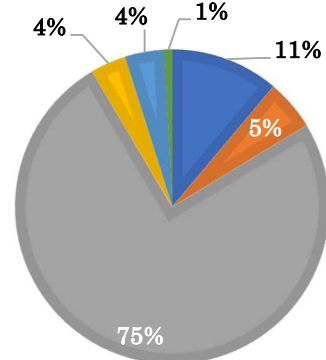
どのように知りましたか

■ ホームページ ■ 新聞・雑誌 ■ 広報とよた
■ SNS ■ その他



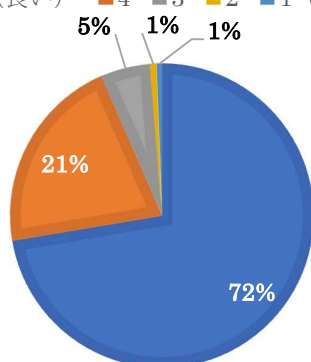
交通手段

■ 電車 ■ バス ■ 自家用車 ■ 自転車 ■ 徒歩 ■ その他



満足度

■ 5 (良い) ■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1 (悪い)



■成果指標

※評価（達成率）…S（目標値の110%以上）、A（標準、90%～110%）、B（70%～90%）、C（70%未満）

	項目	目標	実績	達成率	評価	分析
1	観覧者数	25,000 人	19,119 人	76.4%	B	開館半年を迎え、国宝・重要文化財を中心に日本中の資料を一堂に会する機会とすることで、幅広い世代・地域の方をターゲットとした。結果として、目標の約8割となる19,119人の観覧者を得た。会期終盤は、1,000人／日を超える日もあり、平均は367人／日であった。
2	図録購入	1,000 冊	1,620 冊	162%	S	当初の販売予定数は1,000冊だったが、手に取りやすい表紙デザイン及び手に取りやすい価格設定により、売れ行きが好調で、観覧者総数に対する購買率は、8.5%であった。

②特別展「和食 ～日本の自然、人々の知恵～」

【総括】豊田市博物館初の大型巡回展として開催された。本展は、国立科学博物館を皮切りに全国を巡回するもので、科学・歴史など様々な視点から和食を紹介する内容であり、総合博物館としての豊田市博物館の理念と合致するものであった。生物の標本から様々な歴史資料まで 500 点を超える和食に関わる資料や映像の展示を実施した。

本展の開催にあわせて、常設展示室で「とよたの郷土食」を展示し、全国的な内容が多い巡回展に対して豊田市ならではの視点を加えた。あわせて、豊田市学校給食協会や JA あいち豊田など、豊田市域の食に関わる団体との連携イベントを開催し、来館者が地域の食への興味関心を高める起点を設けることで地域全体での盛り上がりを目指した。

来場者数は、30,624 人と目標の 44,000 人を下回る結果となった。また、名古屋市での本展規模の展覧会を開催する場合は通常 80%程度の有料率であるが、想定有料率 76.6%に対し、62.6%であり、他市と比較して減免対象者の幅が広い当市の場合は有料率が低調になる傾向が窺えた。

これらの点から、今後本展規模の展覧会で目標達成をしていくためには、名古屋市を中心とした市外からの来場者、減免対象外の来場者を獲得していくための施策が必要と考えられる。

◆展覧会名	特別展「和食 ～日本の自然、人々の知恵～」
◆会 期	令和 7 年 1 月 18 日（土）～4 月 6 日（日）
◆会 場	豊田市博物館
◆開館時間	10：00～17：30（入場は 17：00 まで）
◆観 覧 料	当日券：一般 1,900 円 高大生 1,400 円 中学生以下 無料 ※団体・前売りは当日券の価格より 200 円引
◆休 館 日	月曜日（2/24 は開館）
◆主 催	豊田市博物館、中京テレビ放送、朝日新聞社
◆後 援	文化庁、農林水産省、和食文化学会、和食文化国民会議
◆協 賛	三和酒類
◆特別協力	国立科学博物館
◆協 力	クックパッド

■観覧者数 30,624 人（有料率 62.6%）

■図録販売 1,778 冊（購入率 5.8%） 販売価格：2,420 円

関連事業

- ◆「和食展」開幕記念 1月18日(土)、19日(日) ワークショップ マルシェ開催
【ワークショップ】 体験室、セミナールームで開催

- 1 麴文化研究家・なかじ氏とポケット麴を作ろう！ 定員 80 名 合計参加者：73 名
1月18日(土) ①11時～12時 参加 11 名 ②14時～15時 参加 15 名
1月19日(日) ①11時～12時 参加 22 名 ②14時～15時 参加 25 名

- 2 おとうふ工房いしかわ 簡単おとうふづくり教室
各日 11 回開催 合計参加者：198 名

①10:30 ②11:00 ③11:30 ④12:00 ⑤13:30 ⑥14:00 ⑦14:30 ⑧15:00
⑨15:30 ⑩16:00 ⑪16:30

1月18日(土) 参加 68 名、 1月19日(日) 参加 130 名

【和食 マルシェ】

1月18日(土) 28 出店

1月19日(日) 35 出店

- ◆「和食展」ワークショップ 第2弾 3月15日(土)

- ①おとうふ工房いしかわ 簡単！竹ざるお豆腐づくり体験教室
- ②ますづかみそ 超カンタンみそづくり体験！！
- ③たかあき食品 簡単こんにゃくづくり教室&変わり種こんにゃく食べ比べ
- ④塩づくり教室～世界に一つだけのマイソルトを作ろう！～
- ⑤～まるでサラダのような、美味しいぬか漬けが！ぬか床づくり体験～
- ⑥～まるでコンソメ？？ひしおの素でたまねぎ麴を作ろう～

- ◆豊田市博物館主催 定例ワークショップ 体験室、セミナールームで開催

- ①2月22日(土) ちりめんじゃこから生き物を探してみよう：80 名
- ②2月23日(日) 端材から鍋敷きを作ってみよう：101 名
- ③3月9日(日) 粘土で和菓子を作ってみよう：223 名
- ④3月22日(土) 魚のうろこから年齢をしらべてみよう：63 名

- ◆土井善晴氏 講演会 「料理の起源から考える 和食文化と美の思想」

日時：2月15日(土) 参加者 392 名

場所：豊田市民文化会館

- ◆講演会 乳和食ってなに??～お米を軸に栄養バランスを工夫して健康長寿♪

日時：3月2日(日) 参加者 32 名

- ◆豊田市博物館主催 関連マルシェ

- ①とよたの「食」スイーツマルシェ(豊田プレミアムスイーツクラブ) 3月16日(土)
来場者：1,807 名

- ②3月29日(土) 軽トラ市(JA あいち豊田)
来場者：1,034 名

■コラボメニュー（カフェ mitsubachi）

ブイヨン出汁茶漬け

※出汁…和食のお茶漬けがフランスの出汁のブイヨンとコラボしました！出汁が違ふとどんな和食になるのか是非ご賞味ください！



ブイヨン出汁茶漬け 自家製鶏ハム



ブイヨン出汁茶漬け 梅干し



ブイヨン出汁茶漬け 鮭



ブイヨン出汁茶漬け 明太子



豊田のお米の団子入りぜんざい
750円（税込）
※自家製の団子を使ったぜんざいの中に、豊田市の米を使った団子が入っています。



あんバターサンド
850円（税込）
※地元愛知農産物の1品、あんバター。バランスがよい寸法の自家製飽和バターのマリナーズが展開です。



ポテト盛り焼きソース
ポテトシングル 580円（税込）
ポテトダブル 990円（税込）
※世界的にも有名な和食のソース「テリヤキ」が期間限定で登場！ポテトによく絡む生熟するソースに仕上げました。

■広報事業実績

- ・有料広告については、駅・電車内広告、新聞広告を行った。アンケート結果から、新聞・雑誌を見ての来館が11%。また、Instagram上で頻回の更新を行い（期間中97回更新）、SNSを多く見る世代へのアプローチを試みた。結果として、全体の1割がSNSの閲覧を通しての来館となった。
- ・一方で、常設展のアンケート結果と同じくHPを見ての来館が約2割となっていることから、HPの内容については引き続き時宜を得た更新・発信を続けていく。

	媒体	媒体種別	タイトル	掲載日（放送日）	発行（放送）
1	テレビ	情報番組	カミング	令和6年10月11日～令和7年3月28日 計5回放送	中京テレビ
2	テレビ	情報番組	チケット！	令和6年10月30日～令和7年3月3日 計29回放送	中京テレビ
3	テレビ	天気予報番組	天気フィラー	令和7年2月13日～3月6日 計6回	中京テレビ
4	テレビ	情報番組	エブリバースの引力	令和6年10月11日	中京テレビ
5	テレビ	ニュース	あさドレ♪	令和7年1月17日	中京テレビ
6	テレビ	ニュース	和食展開幕	令和7年1月17日	中京テレビ
7	テレビ	ミニ番組	和食展・知るほどおいしい和食の世界	令和7年2月7日～2月28日 計4回 ※ロキボでも無料配信	中京テレビ
8	テレビ	ニュース	じもサタ	令和7年2月8日	ひまわりネットワーク
9	テレビ	CM		令和6年10月～令和7年3月 計169本	
10	新聞	テレビ欄	展覧会開催告知	令和7年1月18日	中日新聞
11	新聞	テレビ欄	前売り券販売告知	令和7年1月16日	朝日新聞
12	新聞	テレビ欄	好評開催中	令和7年2月28日	朝日新聞
13	雑誌	フリーマガジン	ch FILES	令和7年1月20日 5万部配布	
14	交通広告	ポスター	地下鉄64駅に設置	令和6年12月2日～8日、令和7年1月13日～19日	名古屋市営地下鉄
15	交通広告	懸垂幕	金山駅連絡通路	令和7年1月	JR
16	交通広告	ポスター	名鉄神宮前駅	令和6年12月23日～令和7年1月5日	名鉄
17	交通広告	ポスター	近鉄伊勢市駅	令和6年12月23日～令和7年1月5日	近鉄
18	交通広告	ポスター	名鉄豊田駅	令和7年2月17日～3月2日	名鉄
19	コンビニ	店内広告	吊り下げPOP	令和6年10月1日～31日 令和7年1月1日～31日 令和7年2月17日～3月2日	セブンイレブン
20	コンビニ	店内広告	インフォメーションボード	令和6年11月12日～25日	ファミリーマート
21	コンビニ	店内広告	店内放送	令和6年11月12日～18日	ローソン
22	コンビニ	店内広告	店内ポスター	令和6年12月1日～15日、令和7年1月14日～20日	ローソン
23	WEB	WEB広告	インスタグラム	令和6年12月9日～22日、令和7年1月6日～31日	
24	WEB	WEB広告	GDN	令和6年12月9日～22日、令和7年1月6日～31日	
25	WEB	WEB広告	@press	令和7年1月6日	

(参考) ポスター・チラシ送付先

全国の博物館等	303 件（ギャラリー、大学等を含む）
市内公共施設	257 件（市内小中学校・交流館・支所含む）
その他	73 件

■アンケート

調査日：1月18日（土）～4月6日（日）

調査方法：展示室2前に紙アンケート記載機を設置し、自由記入

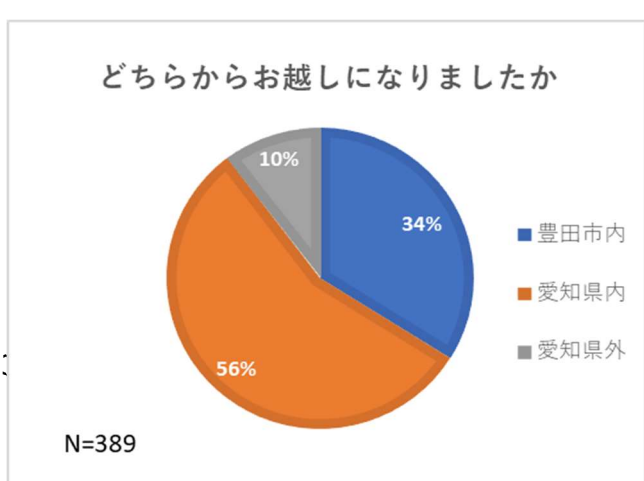
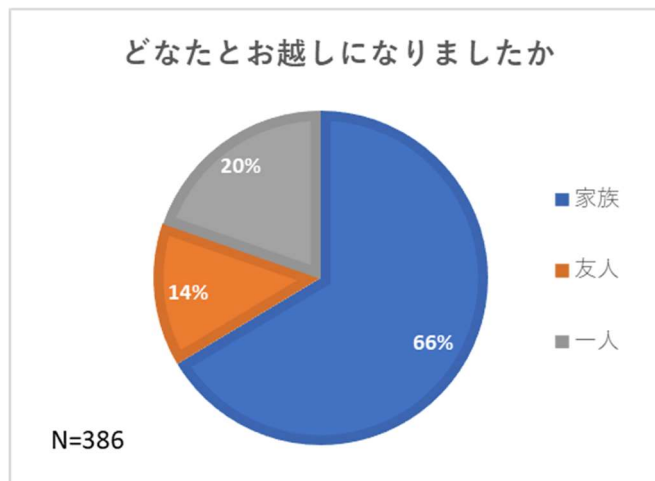
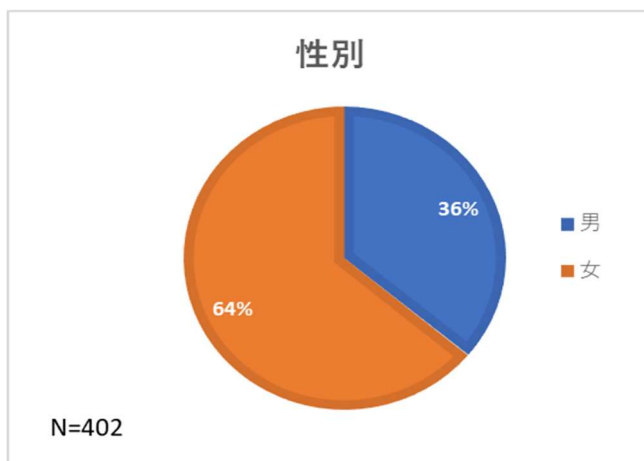
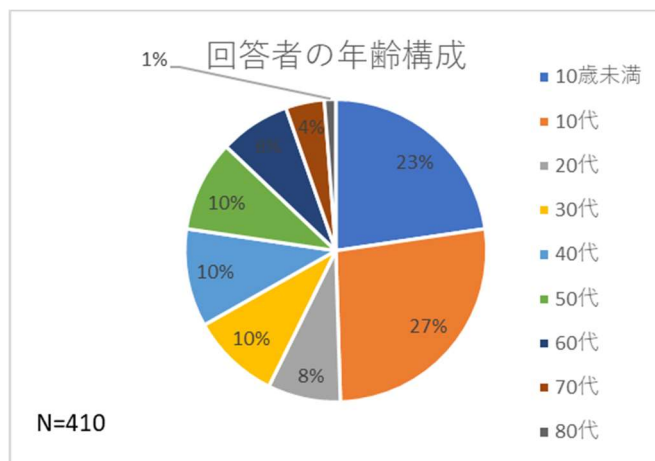
集計枚数：410 枚

アンケート様式：別紙資料 2-1 参照

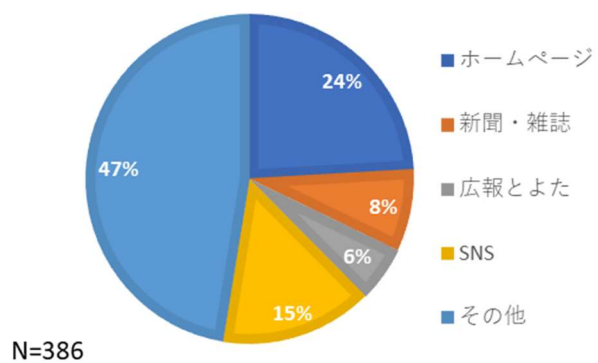
【アンケート結果より】

- ・回答者の年齢構成に注目すると、10代以下が50%と半数を占めており、20代～50代までがそれぞれ10%であった。また、来館者の構成を見ると、66%が家族と来たという回答であった。これらのことから、本展は子どもおよびその親世代の来場が多かったと考えられる。
- ・市内・市外比は、豊田市内36%、市外64%と市外からの来館者が多かった。常設展示室では、市内・市外比は同等またはやや市内者が多い傾向があることから、本展のような大型巡回展では市外者の来館が多くなる傾向がうかがえた。
- ・本展を知ったきっかけとしては、24%がホームページ、次いでSNSが15%と多く、インターネット経由での周知に効果があったと考えられた。なお、その他が47%を占めていたが、口コミや駅でのポスター表示などあげられる。
- ・5段階評価による満足度の結果から、5ないし4と回答した来館者は93%であり、顧客満足度指数が90を超えている点で内容に関する満足度は非常に高いと評価できる。

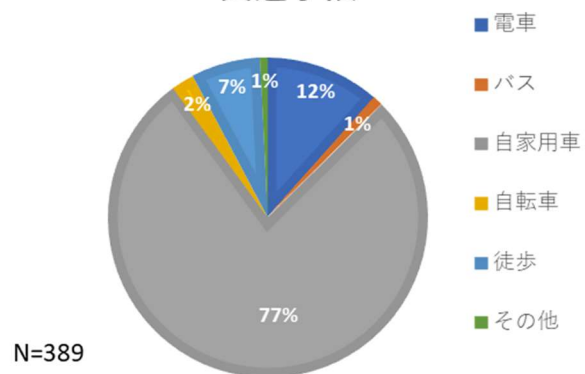
◆集計結果（グラフ）



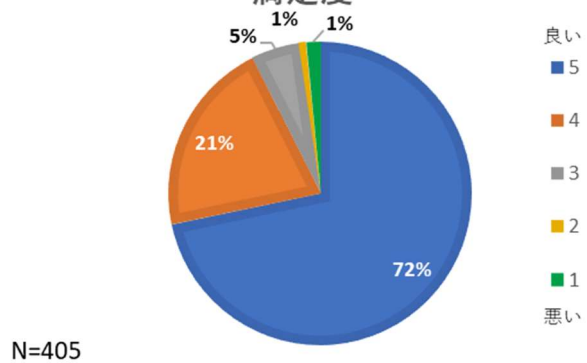
イベントをどのように知りましたか



交通手段



満足度



■成果指標

※評価（達成率）…S（目標値の101%以上）、A（標準、90%~100%）、B（70%~89%）、C（70%未満）

	項目	目標	実績	達成率	評価	分析
1	観覧者数	44,000 人	30,624 人	70%	B	当初の想定入場料と、実行委員会の負担金との損益計算で目標人数を44,000人と設定した。三河地区の博物館ではこれまであまり無い入場料設定と開館初年度で当館の認知度の低さが影響したと考えられ、目標人数を下回った。しかし、中京テレビの番組やCM、新聞等各種の広告露出により、豊田市博物館の存在の認知効果はあったと考えられる。
2	図録販売	1,500 冊	1,778 冊	118.5%	S	当初の販売予定数は1,500冊だったが、馴染みやすいデザイン・日々の生活にも生かせる内容等により好評を博し、追加発注を行った。
3	来館者の年齢構成	子どもやファミリー層からの支持	10歳未満～10代が半数 家族での来館が約7割	—	A	メインターゲットとした子どもやファミリー層へのリーチがあり、家族でのお出かけ先としての博物館の定着に寄与できたと考えられる。

10 教育普及

(1) 博物館学習

子どもたちが、博物館の展示室や自然・生活体験ゾーン、市内の見学地で観察したこと、触れたこと、感じたことを自由につなげて考え、新しい何かを見つけ、導き出すことを目的としている。主体的・対話的で深い学びや「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、学校教育と連携している。

①博物館学習 実績合計

延べ 335 校 延べ 24,451 名 ※A+B+C+D

<内訳>

A アクティブ・ラーニングツアー

延べ 125 校 延べ 8,432 名

B 博物館・現地見学

延べ 128 校 延べ 6,239 名

C 出前授業

延べ 4 校 延べ 782 名

D 資料貸出

延べ 78 校 延べ 8,998 名

※博物館学習以外における学校等との関わり

- ・市内小中学校 教職員研修（現職教育）の実施 70 人
- ・豊田市教育研究会（社会部会）社会科主任者会の実施 115 人
- ・豊田市教育センター 第8回初任者研修校外研修 88 人
- ・愛知地区教育研究会 社会部会 90 人
- ・高等学校地歴科初任者研修会 13 人
- ・愛知県社会科教育研究協議会 22 人

②アクティブ・ラーニングツアーの事後アンケート

《教員》

●満足度

- ・満足 88%
- ・やや満足 12%

●子どもへの教育効果が高いと感じたところ

- ・各学校の実態に合わせて、実物や本物を活用する学習プログラムを構成し実践できたこと。
- ・児童生徒の疑問に対して、学芸員から専門的なお話を聞くことができたこと。
- ・美術館での学習を併せて実施できること。
- ・博物館での学習が、その後の学校での学びにもつながっていること。

《児童生徒》

●博物館で学習をして、学習課題は解決できたか。

- ・すごく解決できた 50%
- ・少し解決できた 45%
- ・あまり解決できなかった 4%
- ・解決できなかった 1%

- 博物館で学習をして、もっと調べたいことは出てきたか。
 - ・たくさん出てきた 33% ・少し出てきた 53% ・とくにない 14%
- 自由記述より
 - ・博物館学習での展示見学や学習プログラムを通して、豊田の歴史や自然、産業に関する様々なことを学ぶことができた。
 - ・本物・実物を活用することで、五感を使った学びを実現でき、教科書やタブレットでは分からないことにも気づくことができた。
 - ・郷土の魅力を再発見する機会となり、郷土愛を育むことができた。
 - ・新しい疑問を発見し、また博物館で学びたいという思いを高めた。
 - ・博物館で学んで考えが変わった、自分事として考えるようになった。
 - ・はじめて訪れた子ども達が、博物館や美術館のおもしろさを知る機会になった。
 - ・博物館で学んだことをきっかけに現地を訪れたいという思いを高めた。
 - ・関心の高さや、学習の好き嫌いに関わらず、多くの子が楽しく学び、興味関心を高めた。

(2) 地域との活動

令和6年度の地域との活動については、①アウトリーチ（出前講座や出張展示、イベント出展、見学ツアー）、②博物館における市内の観光・イベント情報等の発信、③地域間の施設との連携 以上3点について記載する。

①アウトリーチ

- ・調べる・伝える学習応援講座（豊田市中央図書館 7月28日社会科、7月29日理科）
- ・キャリア学習（豊田市立竜神中学校 11月18日）
- ・「古代・中世の高岡地区の領主」（前林・若林・若園交流館主催令和6年度高岡歴史めぐり第1回講座、於前林交流館、6月9日）
- ・「高岡地区若林の文化財を訪ねる」（前林・若林・若園交流館主催令和6年度高岡歴史めぐり第5回講座、於若林交流館ほか、10月13日）
- ・中馬のおひなさん（足助中馬館 2月7日～3月12日）

②博物館における市内の情報発信

- ・情報発信コーナー

博物館2階図書コーナーの一角にある「情報コーナー」で、市内の観光情報や地域の魅力発信に関わるチラシやリーフレットなどを配布した。

③地域間の施設との連携

- ・豊田市民芸館との展覧会による連携

展覧会「特別展 和食」（令和7年1月18日～4月6日）の開催にあたり、平戸橋町に所在する豊田市民芸館では、連携して展覧会「おいしい民窯」（令和7年1月11日～5月25日）を開催し、3,453人（令和6年度会期分）が観覧した。

- ・とよたのミュージアムなぞ解きラリー（令和6年7月20日～9月23日）

文化財課が主催する上記の事業について、連携して取り組んだ。美術館、博物館、民

芸館、民芸の森、旧松本家長屋門、松平郷館、棒の手会館、喜楽亭、歌舞伎伝承館、旧鈴木家住宅の市内計 10 館を巡るスタンプラリーであり、1,032 人が参加した。

・地域資料館の閉館と展示機能の一部移転

令和 5 年 9 月、全市の歴史継承施設となる博物館の開館（令和 6 年 4 月）に合わせ、地域の歴史継承施設である 4 施設について、開館・運営形態を見直し、文化財施設条例からの削除を行う方針が議決された。

これを受け、足助資料館・旭郷土資料館について令和 6 年 3 月末をもって閉館、藤岡民俗資料館・稲武郷土資料館について令和 7 年 3 月末をもって閉館とし、それらの展示機能の一部を、地区内の公共施設へと移転した。それぞれの移転先と現在紹介している展示内容は以下のとおりである。

- ・足助中馬館 「足助の中世」
- ・旭農林会館 「旧浅野中学校の記憶」「坪崎の火きり神事」
- ・藤岡交流館 「藤岡地区の遺跡」
- ・稲武交流館 「小田木の人形浄瑠璃」

これら 4 館の収蔵資料については、今後、博物館や他の収蔵施設への輸送および整理作業を進める。

1 1 広報

(1) ポスター掲示

開館に向けた機運醸成のために、開館 PR ポスターを作成し、市内各所に送付したほか、名古屋鉄道株式会社豊田市駅・愛知環状鉄道株式会社新豊田駅への掲出、名古屋鉄道株式会社金山総合駅懸垂幕に使用、名古屋鉄道株式会社名古屋駅・中部国際空港駅のデジタルサイネージへ掲載をした。

(2) 新聞・テレビ・ラジオ

- ①新聞 掲載実績 95 件
- ②テレビ 放映実績 19 件
- ③ラジオ 放送実績 4 件

(3) 雑誌

- ①雑誌 掲載実績 26 件
- ②フリーペーパー 掲載実績 17 件
- ③社内報等その他発行物 掲載実績 2 件

(4) ホームページ・SNS

月	ホームページ	Instagram	
	アクセス数 (回)	投稿数 (件)	フォロワー数 (人)
4月	132,666	51	1,802
5月	227,819	65	2,100
6月	133,902	65	2,207
7月	137,181	48	2,207
8月	152,634	36	2,405
9月	122,190	30	2,450
10月	123,856	48	2,517
11月	126,503	35	2,844
12月	90,562	37	2,952
1月	178,053	54	3,029
2月	143,436	87	3,445
3月	158,170	85	3,618

※月間フォロワー数は、各月の1日時点のもの

1 2 評価

博物館の運営に関する評価は、博物館法第9条における「博物館は、当該博物館の運営状況について評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。」の条文に基づき実施される。文化庁によるガイドラインでは、「評価の継続性」「目標・評価項目および評価指標の設定」「評価指標の達成状況の明示」「今後の改善策」が必要条件として挙げられており、いわゆる「来館者アンケート結果」や「事業実績報告」とは明確に区別すべきものされている（平成20年度 博物館評価制度等の構築に関する調査研究報告書）。

本章における評価は、前章までの各個別の事業実績やアンケート調査とは別の、令和6年度における豊田市博物館について、総体としてのあり方を評価することとする。

(1) 自己点検による評定の傾向

今回の評価の基準については、国内の博物館で最も一般的に導入されている、公益財団法人日本博物館協会による博物館自己点検システムを用いる。自己点検に際しては、以下の領域について実施した。

①「館長・館の経営責任」（全15項目）、②「利用者・市民・地域との関係」（全14項目）、③「展示」（全15項目）、④「教育普及」（全14項目）、⑤「学芸員・一般職員」（全10項目）、⑥「調査研究」（全9項目）、⑦「資料・コレクション」（全16項目）、⑧「施設・アメニティー」（全17項目）。以上、8領域・110項目となる。

自己点検による評価は、表11-1～8に記載した。設問および判断の根拠を上下にまとめ、その右「自己」列に、その判断を示した。「1」は是（要件を満たす）、「0」は非（要件を満たさない）と採点した。自己点検のスコア合計点は557点であり、これを8項目で除した69.6点、つまり約70点が項目全体の平均となる。

この平均から5ポイント以上（オレンジ色）となるものは、「展示」「施設・アメニティー」であり、5ポイント未満（青色）となるものは、「調査・研究」「資料・コレクション」となる。

(2) 自己点検の評価

5ポイント以上となった「展示」「施設・アメニティー」については、元々の設計・整備内容や本市の公共施設としての基本的なルールに基づくところが大きい。ただし、「展示」については、昨年度実施した常設展に関するアンケートでも、「参加型」「体験型」による展示手法や、展示空間の構成、展示更新について評価いただいている点からも、自己点検としての評価と成果が関連していると考ええる。

また、「展示」と関わる展覧会事業については、令和6年4月の開館から9月まで、展示室の枯らし期間を確保するため開催し得なかったものの、年度下半期となる10月から「旅するジョウモンさん」、1月から「特別展 和食」を開催できた。「旅するジョウモンさん」については、評価指標ともなっている図録が完売となっただけでなく、「ジョウモン不動産」や「それ、ジョウモンだから」などの参加型展示が大変好評であり、実施しているかどうかのみならず、一定の支持を得たものとする。「特別展 和食」についても、評価項目は異なるものの、マルシェやワークショップなどのイベント開催に

伴う連携で、利用者・市民・地域との関係性をより深めた。巡回展など大型展覧会を誘致し、地域としてどのように活かしていくかという点で、意義のある取組であったと考えている。

令和7年度以降の展覧会計画については、4回／年度の頻度での開催を想定している。展覧会は、常設展とともに、資料収蔵、調査研究などの基礎的な活動成果を目に見える形で発現させる主要な手段である。「集め、保存する」「調べる」ことと、展示・展覧会として「可視化する」ことの関係性は、博物館活動の本質的な意義を問う上で極めて重要であることは言うまでもない。そういった点において、「展示」と比べ、基礎的な活動である「調査・研究」「資料・コレクション」のスコアが、5ポイント未満と相対的に低いことは注視すべきであろう。開館間もない時期であり、人的体制や業務環境が十分整っていないことは否めないものの、館の使命である「地域のあゆみをうけつぎ、その魅力をさぐり、豊田市の人と未来をつくる」ことを実現する上でも、一層の努力を促す分野として注視しておきたい。

(3) まとめ

博物館評価の目的と意義は、「組織的・継続的に改善する体制づくり」「課題や成果の共有」「関係者に対する説明責任」とされる（平成20年度 博物館評価制度等の構築に関する調査研究報告書）。そういった意味で言えば、自己点検評価システムの設問が示す網羅性と対照した場合、当館では、積極的に取り組んでいる点と、取り組めていない点が存在する。今後、自己点検と外部評価を継続して実施し、課題を認識・改善しながら、豊田市博物館の使命を果たしていきたい。

表 11-1

＜館長・館の経営責任＞

設問（上段）・判断の根拠（下段）	館	委員
A01：館と設置者の間の連絡調整を定期的に行っている。	1	
設置者（豊田市）が館運営者であり、部局内・部局間の連絡調整は十分できており、館内業務委託事業者とは定期的に連絡調整会議を実施している。		
A02：館の使命（設置目的や基本理念）をわかりやすい言葉で明文化している。	1	
設置目的「地域のあゆみをうけつぎ、その魅力をさぐり、豊田市の人と未来をつくる」基本理念「みんなでつくりつづける博物館」として明文化している。		
A03：館の使命（設置目的や基本理念）を来館者用リーフレット、ホームページ、広報誌などに掲載している。	0	
ホームページ・要覧には掲載しているが、来館者用リーフレットには掲載できていない。		
A04：館長の身分は、常勤である。	1	
館長の身分は、3年以上の継続を前提とした会計年度任用職員（週4日）であり、常勤に準じている。		
A05：館長は、人事（上申権の場合も含む）・財務・事業など、館の経営全般にわたる権限を有している。	1	
博物館の運営方針、資料の収集・保存、調査・研究、展覧会開催、普及啓発活動など学芸活動全般を指導、統括し、学芸員の人材育成に努める。		
A06：館の事業や業務に関して、意思決定のための会議を定期的に関いている。	1	
職長会（回／週）・全体会（回／月）で意思決定を行っている。		
A07：館として中長期的な経営目標（設置者が認知・了解しているもの）を定めている。	0	
短期的（単年度）な経営目標を定めているに留まる。		
A08：経営目標を達成するために年度毎の経営計画を立てている。	0	
短期的（単年度）な経営計画を立てているに留まる。		
A09：事業面、管理運営面など全般にわたる自己評価を実施している。	1	
令和6年度事業実績から毎年度自己評価を実施していく。		
A10：事業面、管理運営面など全般にわたる外部評価を実施している。	1	
令和6年度事業実績から毎年度外部評価を実施していく。		
A11：中長期の財務計画を策定している。	0	
短期的（単年度）の財務計画を立てているに留まる。		
A12：自己収入額、自己収入比率の少なくともどちらか一方について目標を設定している。	1	
展覧会事業について自己収入比率（有料観覧者率）の目標を有し、ワークショップなどの参加費は、受益者負担として目標を設定している。		
A13：館の活動に関係する法令・条約・倫理規程をすぐに参照できるところに置いている。	1	
館事務所内で確認できる。		
A14：年報、要覧やインターネットを通して、事業実績や目標の達成状況、財務など、館の運営状況を公開している。	1	
令和6年度事業実績から市および館ホームページ等で公開していく。		
A15：職員の志気を向上させるために、目標管理、提案制度、報奨制度、自己申告制度などの仕組みを設けている。	1	
市全体の制度である重点目標・人事考課・改善提案と共に、将来の展覧会計画等については所属内コンペを実施している。		
	11	
	15	
	0.73	

表 11-2

＜利用者・市民・地域との関係＞

設問（上段）・判断の根拠（下段）	館	委員
B01：館として、広報宣伝計画を策定している。	0	
広報宣伝計画を策定していない。		
B02：館のホームページを開設し、掲載内容を適時・適切に更新できる体制をとっている。	1	
館のホームページを有し、館内で迅速に更新している。		
B03：館の広報誌（ニュース・レターなど）を発行している。	0	
紙面については「こどもはくぶつかんだより」のみであり、幅広い世代にはホームページやSNSでの対応に留まる。		
B04：来館者の実態や来館者数の動向を把握するための調査を実施している。	1	
展覧会やワークショップなど企画に応じて調査を実施している。		
B05：来館者数に目標を立てている。	1	
観覧者数・施設利用者数の目標を有している。		
B06：館の利用実態や動向、利用のニーズを知るために、館利用に関するアンケートやモニター調査を実施している。	1	
展覧会やワークショップなど企画に応じてアンケート調査を実施している。		
B07：高齢者に対する配慮として、入館料の割引（無料を含む）を実施している。	1	
市内在住の70歳以上は無料である。		
B08：障害者に対する配慮として、入館料の割引（無料を含む）を実施している。	1	
障害者及び介添者1名は無料である。		
B09：「友の会」を設置している。	0	
友の会（ファン層）は豊田市民全体と考えており、市ホームページやSNS等で情報発信を行っているため「友の会」は設置していない。		
B10：「ボランティア制度」を導入している。	1	
「とよはくパートナー」は無報酬の博物館活動者である。		
B11：サークル、NPOなどに関わるなかで、市民が館の事業に参画する機会を設けている。	1	
「とよはくパートナー」には、個人のほか、サークル・NPOなど団体も参画している。		
B12：「博物館協議会」などを通じて市民に、館の運営に参画してもらっている。	1	
市民に「豊田市博物館運営協議会」へ参画いただいている。		
B13：地域と連携するための方針・計画を、館として策定している。	0	
方針・計画は策定していない。		
B14：地元の企業・団体（商工会、商工会議所など）と協賛・協力し、事業を実施している。	1	
「とよはくパートナー」に、複数の企業・団体（102団体）が参画し、えんにち空間での展示やマルシェなどを連携して実施している。		
	10	
	14	
	0.71	

表 11-3
＜展示＞

設問（上段）・判断の根拠（下段）	館	委員
C01：展示方針を策定し、計画的に展示を行っている。	1	
展覧会については将来3年度、常設展については当該年度について計画を策定している。		
C02：常設展示は定期的に更新している。	1	
令和6年度については、計3回の中規模の更新を実施した。		
C03：アンケートを実施するなどして、観覧者の満足度を把握している。	1	
展覧会・常設展についてアンケートを実施している。		
C04：展示について、観覧者数の目標を設けている。	1	
常設展・展覧会共に観覧者数の目標を設けている。		
C05：展示図録やガイドブックを作成・配布（販売）している。	0	
常設展についてはインターネット上でガイドの頁を設けている。		
C06：館の専門スタッフ（学芸員など）による展示の案内・解説を、曜日や時間を決めて定期的に実施している。	0	
展覧会について、日時を定め展示の案内・解説を実施している。		
C07：ボランティアによる展示の案内・解説を、曜日や時間を決めて定期的に実施している。	0	
常設展について、とよはくパートナーによる展示の案内・解説を随時実施している。		
C08：館内の案内表示を外国語で行ったり、外国語による案内パンフレットを作成したり、外国人向けの館内案内を行っている。	1	
館内の案内表示は日英、案内パンフレットは日葡韓中英で対応している。		
C09：特別展・企画展の図録を刊行している。	1	
展覧会については展示図録を作成・販売している。		
C10：参加体験型の展示を導入している。	1	
常設展については「とよた記憶トラベル」「とよたたんきゅうラボ」、展覧会については「旅するジョウモンさん」展で導入している。		
C11：展示室内に監視員や監視カメラを配置している。	1	
常設展示室および展示室1・2に監視カメラを配置し、開館時は監視員を配置している。		
C12：展示品の点検を曜日や時間を決めて定期的に行っている。	1	
展示品の点検は開館時に実施している。		
C13：展示品の展示環境について温湿度や光量を管理している。	1	
中央監視室での機器モニタリングによる温湿度管理と照度計を用いた光量管理を実施している。		
C14：展示機器を定期的に点検するとともに、故障があった場合に迅速・適切に対応できる体制を整えている。	1	
展示機器については、通年で点検および緊急対応を委託している。		
C15：特別展・企画展などの記録・報告書を作成している。	1	
展覧会の報告を市ホームページ上で公開している		
	12	
	15	
	0.8	

表 11-4
＜教育普及＞

設問（上段）・判断の根拠（下段）	館	委員
D01：教育普及活動を、策定した方針のもとに計画的に行っている。 博物館学習については博学連携委員会が策定した方針に基づき計画的に実施している。	1	
D02：アンケートを実施するなどして、教育普及活動への参加者の満足度を把握している。 ワークショップについては参加者アンケートを実施している。	1	
D03：教育普及活動について参加者数の目標を設けている。 参加者数の目標を設けていない。	0	
D04：質問・相談・問い合わせの窓口を利用者に向けてはつきり示している。 博物館ホームページで「各種申請・お問い合わせ」の頁を設けている。	1	
D05：来館しなくても質問・相談・問い合わせのできる体制（電話・ファックス、手紙、インターネットの活用など）を整えている。 電話・ファックス、手紙、インターネットにより随時受付・回答している。	1	
D06：博物館の利用方法についての講座、学芸員の仕事を体験する講座、バックヤードツアーなど、館の利用を支援する教育普及活動を実施している。 実施できていない。	0	
D07：来館者用の図書・情報コーナー（室）を設けている。 「図書コーナー」「みんなの研究室」を設置している。	1	
D08：出張・移動活動（アウトリーチ活動）を行っている。 出前講座（交流館・図書館）や出張展示（中馬のおひなさま）を実施している。	1	
D09：学校の利用に備えて、プログラムを準備したりスタッフを用意したりしている。 博学連携委員会による学習プログラムを基に、職員3人ととよはくパートナーを中心に対応している。	1	
D10：団体利用の児童・生徒に対して、館としてオリエンテーションを行っている。 アクティブ・ラーニングツアーで来館する児童・生徒に対してオリエンテーションを行っている。	1	
D11：学校の教員向けの利用説明会や研修会を行っている。 初任者研修会や豊田市教育研究会の研修会において利用に関する説明を行っている。	1	
D12：博物館実習の実習生を受け入れている。 令和7年度より博物館実習を開始する。	0	
D13：インターンシップの学生を受け入れている。 インターンシップの学生受け入れに関する実績は無い。	0	
D14：教育普及活動に関して活動の記録を作成している。 教育普及活動に関する内部的な記録と共に、実績を市ホームページで公表している。	1	
	10	
	14	
	0.71	

表 11-5

＜学芸員・一般職員＞

設問（上段）・判断の根拠（下段）	館	委員
E01：常勤の学芸員が配置されている。	1	
常勤の学芸員 6 人が配置されている。		
E02：学芸員を専門職として採用している。	1	
学芸員の専門性を採用時に確認した上で採用している。		
E03：学芸に関わる職員の採用にあたって学芸員資格を要件としている。	1	
学芸員資格を要件としている。		
E04：学芸員について、人事異動や人事交流を行っている。	0	
学芸員の人数が限られるため、十分な人事異動・人事交流が行えていない。		
E05：学芸員を幹部職員（館長、副館長、部課長）に登用している。	1	
所属長（副館長）は学芸員から登用されている。		
E06：他館や他機関が主催する研修に、学芸員を派遣・参加させている。	1	
文化庁や東京文化財研究所、文化財虫菌害研究所等が主催する研修に学芸員を派遣・参加させている。		
E07：学会の大会や他館・他機関主催の研究会に学芸員が参加することを、館の業務として認めている。	0	
令和 6 年度については具体的な事例が無かった。		
E08：展示や教育普及、調査研究、保存など学芸員の活動の成果を、館として、刊行物等で公開している。	1	
学芸員の活動の成果について、SNS で公開している。		
E09：学芸系の職員のほかに常勤の職員が配置されている。	1	
総務・施設管理業務について常勤の市職員を配置している。		
E10：学芸系ではない職員を対象にした研修を、館として実施している。	0	
展覧会については、開催前に実施している。		
	7	
	10	
	0.7	

表 11-6

＜調査研究＞

設問（上段）・判断の根拠（下段）	自己	委員
F01：館として、調査研究の方針・計画を策定している。	0	
調査研究の方針はあるが、計画を策定していない。		
F02：調査研究のための予算措置を行っている。	1	
各展覧会事業の旅費として調査研究費を予算措置している。		
F03：館として専門誌・専門書を購入したり機材・器具を設備したり、調査研究を進めるための環境整備を行っている。	1	
博物館に関わる専門誌や各分野の専門書を都度購入すると共に、調査機材・器具を設置している		
F04：学芸系職員の勤務時間・職務内容について、調査研究の遂行のための配慮を加えている。	0	
調査研究の遂行のための配慮を加えることはできていない。		
F05：収集している資料と関連する学問分野について、調査研究に取り組んでいる。	1	
収集資料の整理作業と並行して調査研究に取り組んでいる。		
F06：資料の管理・修復・保存、展示・教育普及活動の理論や方法、博物館経営など、博物館学分野での調査研究に取り組んでいる。	1	
博物館 I P M（総合的有害生物管理）や教育普及活動について、調査研究に必要な基礎的な情報を収集している。		
F07：地域への貢献を視野に、館が所在する地域や地域の資料について、調査研究に取り組んでいる。	1	
常設展の企画を進めることを中心として、地域の資料について調査研究に取り組んでいる。		
F08：調査研究の経過・成果を紀要や報告書などで外部に公表している。	0	
紀要や報告書は現在作成・公表していない。		
F09：他館や他研究機関と共同研究を行っている。	0	
共同研究は現在実施していない。		
	5	
	9	
	0.55	

表 11-7

＜資料・コレクション＞

設問（上段）・判断の根拠（下段）	自己	委員
G01：館として資料収集の方針を策定している。	1	
条例で資料収集対象の概要を、内規で詳細を定めている。		
G02：法令、条約、倫理規程などを遵守して資料収集するために、館としてガイドラインを策定している。	0	
ガイドラインは策定していない。		
G03：資料の出所・来歴の妥当性、真贋などの検討を外部の専門家を含めて行い、その助言を得て資料の購入・受入れを決定している。	0	
収蔵の妥当性や資料の真贋については、館の学芸員が主体となって判断し、適宜、外部の専門家を含めて検討を行っている。		
G04：収集した資料のうちの7割以上を資料台帳に登録している。	1	
新規収蔵し整理中の対象以外は資料台帳に登録している。		
G05：収蔵資料のうちの7割以上について資料情報を記録している。	1	
新規収蔵し整理中の対象以外は資料台帳に登録している。		
G06：収蔵資料のうちの7割以上の資料について所在を正確に確認できている。	1	
1割未満の一部を除いて所在を正確に確認できている。		
G07：未整理資料について整理の計画を立てている。	0	
未整理資料の整理の計画は今後立てていく。		
G08：温湿度・光量の管理が必要な資料のうちの半分以上の資料について、必要とされる管理を行っている。	1	
半分以上の資料について、必要とされる管理を行っている。		
G09：総合的有害生物管理（IPM）の考え方に基づき、日常的に虫菌害の予防措置をとっている。	1	
IPMの考え方に基づきモニタリングを常時実施しており、異常が確認された際は原因究明や緊急対応に務めている。		
G10：少なくとも主要な資料については、定期的に資料の状態に関する点検を行っている。	0	
今後、館蔵資料のうち指定文化財について年次点検を実施していく。		
G11：資料の修復を計画的あるいは必要に応じて行っている。	1	
資料の修復は必要に応じて行っている。		
G12：収蔵資料の7割以上を記載した資料目録を整備している。	1	
登録資料を網羅した資料目録を整備している。		
G13：資料目録を公開している。	0	
資料目録の一部について公開している。		
G14：資料目録の7割以上をデジタル化している。	0	
資料目録の1割をデジタル化している。		
G15：資料情報の追加・更新を、適宜、あるいは定期的に行っている。	1	
資料情報の追加・更新は適宜実施している。		
G16：資料の貸出しを認めると同時に、規定・手続きを整備している。	0	
令和6年度に博物館へと資料移管を行い、現在、資料整理作業であるため資料貸出をしていない。		
	9	
	16	
	0.56	

表 11-8

＜施設・アメニティー＞

設問（上段）・判断の根拠	自己	委員
H01：施設の維持・改善について中長期計画を策定している。 中長期計画を策定している。	1	
H02：最低限、主要な建物については、耐震対策を行っている。 現在の耐震基準に即した耐震対策を行っている。	1	
H03：展示室や収蔵庫など建物内の設備について、何らかの耐震対策を行っている。 耐震対策を行っている。	1	
H04：危機管理マニュアルを整備している。 市の様式に準じた危機管理マニュアルを策定している。	1	
H05：防災・防犯・救急・救命訓練を定期的に実施している。 防災および救急・究明訓練は実施しているが、防犯訓練は実施できていない。	0	
H06：不慮の事故などに備えて保険に加入している。 博物館総合保険及び市庁舎に適応される市民総合賠償補償保険に加入している。	1	
H07：バリアフリー化について、改善が必要な個所を把握するための自己点検を実施している。 来館者の声を踏まえながら今後自己点検を実施していく。	0	
H08：案内表示に関して、できる個所から、または計画的に改善を行っている。 来館者の声を踏まえながら案内表示をできる箇所から改善を行っている。	1	
H09：来館者の動線に関して目視調査などによって現状を把握し、必要な改善を行っている。 来館者数や観覧者動線を踏まえて、逐次改善を行っている。	1	
H10：来館者用の駐車場を、一般来館者用、障害者用、ともに用意している。 一般来館者用のほかに、障害者用と妊婦・高齢者用（思いやり駐車場）を用意している。	1	
H11：休憩コーナーを設置している。 図書コーナーに隣接して休憩コーナーを設置している。	1	
H12：喫茶コーナー・レストランを設置している。 カフェを設置している。	1	
H13：展示図録やガイドブック、教材など、館の活動を、直接、案内・紹介する物品を販売している。 ショップにおいて展示図録等を販売している。	1	
H14：館が開発したオリジナル商品を販売している。 ショップにおいて絵葉書・野帳等のオリジナル商品を販売している。	1	
H15：利用実態に応じて開館時間を延長したり夜間開館を行ったり、開館時間の設定の見直しを行っている。 博物館学習について、一般観覧者との混乱を避けるため、通常開館時間より早く入館している。	1	
H16：接遇のための職員研修（委託業者職員の研修を含む）を、必要に応じて、あるいは定期的に実施している。 職員研修を実施できていない。	1	
H17：利用者からの苦情や要望への対応手順を定めている。 市のルールに即して対応している。	1	
	15	
	17	
	0.88	

